

韓国語会話を楽しむ I

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考 火5

【授業のねらい】

この授業では、韓国語IVまで既習した文型・文法内容を踏まえながら、韓国語上級者に相応しい実践力ある表現を駆使できる学習者をめざす。これから留学を目指す人またはより上級レベルへのステップアップを目指す人にとっては自分の語学力を極める場として、また既に留学を経験した人にとっては語学力保持および更なる上達の場として位置づけるクラスである。

【授業の展開計画】

各授業は、一つのテーマを用いた文型・会話学習(前半)と、四字熟語を中心とした日韓両言語の比較学習(後半)で成ります。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスー授業内容説明、自己紹介など
2	呼び方① / 今日の四字熟語
3	呼び方② / 今日の四字熟語
4	バンマルと尊敬 / 今日の四字熟語
5	慣用句 / 今日の発音練習
6	ことわざ / 今日の四字熟語
7	擬声語・擬態語 / 今日の四字熟語
8	言葉の由来 / 今日の四字熟語
9	課題、中間チェック
10	新造語・流行語 / 今日の発音練習
11	方言 / 今日の四字熟語
12	天気用語 / 今日の四字熟語
13	性格用語 / 今日の四字熟語
14	手紙用語 / 今日の四字熟語
15	身振り手振りに関する用語 / 今日の四字熟語
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・語彙学習を含む普段の積み重ねはとても重要です。毎日韓国語に触れる時間作りに心がけましょう。
- ・授業は主にグループまたはペアで活動します。レベルの差に関係せず、お互い補い合う姿勢で積極的に会話活動を行ってください。

【評価方法】

- ・出席と授業参加度(30%)、期末試験(30%)、小テスト・課題(40%) の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

- ・授業は、配布するプリントおよびCALL教材で行い、別途のテキスト指定はありません。
- ・授業で扱ってほしい学習リソースがあれば是非みんなで共有しましょう！

【参考文献】

- ・金ソジョン(2007)『生きている韓国語-漢字熟語-』 Korea Language PLUS
- ・全ミスン(2009)『文化の中の韓国語』 Korea Language PLUS
- ・長渡陽一(2009)『韓国語の発音と抑揚トレーニング』アルク

韓国語会話を楽しむⅡ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考 火5

【授業のねらい】

この授業は、既習した文型・文法内容を活用し、韓国語上級者に相応しい実践力ある表現を駆使できる学習者を目指すものです。位置づけとしては、これから留学を目指す人またはより上級韓国語を目指す人にとっては自分の語学力を極める場として、既に留学を経験した人にとっては語学力保持および更なる上達の場として位置づけられています。

【授業の展開計画】

各授業は、一つのテーマを用いた文型・会話学習(前半)と、四字熟語を中心とした日韓両言語の比較学習(後半)で成ります。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス - 学期の流れ
2	食文化① / 今日の四字熟語
3	食文化② / 今日の四字熟語
4	夢 / 今日の四字熟語
5	食文化③ / 今日の四字熟語
6	気候 / 今日の四字熟語
7	受験 / 今日の四字熟語
8	グループ課題、中間チェック
9	割り勘 / 今日の四字熟語
10	チムチルバン / 今日の四字熟語
11	敬語 / 今日の四字熟語
12	お正月 / 今日の四字熟語
13	熱い / 今日の四字熟語
14	トラ / 今日の四字熟語
15	今日の四字熟語とまとめ
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・語彙学習を含む普段の積み重ねはとても重要です。毎日韓国語に触れる時間作りに心がけましょう。
- ・授業は主にグループまたはペアで活動します。レベルの差に関係せず、お互い補い合う姿勢で積極的に会話活動を行ってください。

【評価方法】

- ・出席と授業参加度(30%)、期末試験(30%)、小テスト・課題(40%) の平均により評価。
- ・授業回数の3分1以上欠席の場合は不可。

【テキスト】

- ・授業は、配布するプリントおよびCALL教材で行い、別途のテキスト指定はありません。
- ・授業で扱ってほしい学習リソースがあれば是非みんなで共有しましょう！

【参考文献】

- ・金ソンジョン(2007)『生きている韓国語-漢字熟語-』 Korea Language PLUS
- ・長渡陽一(2009)『韓国語の発音と抑揚トレーニング』アルク
- ・川越菜穂子(2012)『こだわり韓国語』三修社

韓国語 I

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

初めて韓国語に接する学習者を対象に、文字の仕組みや発音の仕方などをしっかり押さえることで、韓国語能力の基礎作りを図ります。また、学習した文字を応用して、日常的な会話表現を身につけると同時に、韓国の人や生活文化などにも接することで、ことばと文化を結ぶ韓国語授業を目指します。適宜副教材として、解説プリント、視聴覚教材、カードゲーム、ハングルビンゴ等で効果的で楽しい学習を図ります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、あいさつ練習、ニーズ調査
2	基礎・第1～2課：韓国語の文字の仕組みと基本母語
3	基礎・第3課①：平音の発音練習
4	基礎・第3課②激音と濃音の発音練習
5	基礎・第4課：複合母音の仕組みと発音練習
6	基礎・第5課：終音（パッチム）の仕組みと発音練習
7	基礎・第6課：発音の変化 / 韓国映画を楽しもう！
8	第1課：名詞文①「～は～です」
9	第2課：名詞文②「～は～ですか」
10	第3課：名詞文の否定表現「～ではありません」、指示詞「こ・そ・あ・ど」の活用
11	第4課：存在の「あります（います）／ありません（いません）」表現
12	第5課：用言文の丁寧表現①「します／しますか」の表現
13	第6課：用言文の丁寧表現②「します／しますか」よりもくだけた表現
14	第7課：動詞・形容詞の丁寧表現（～です・～ます）
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

・初回の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。（登録調整期間中は受講人数調整のため、申し出なく複数回欠席した場合、受講意思が無いものとみなし登録が取り消される恐れがあるため特に注意すること。）

- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験（40%）、出席（25%）、課題（30%）、授業態度（5%）の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ韓国語講座（初級）』国書刊行会 （2,100+税）

【参考文献】

辞書や参考書については、必要に応じて授業で紹介する。

韓国語 I

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文・社文・企シ（月木3）

【授業のねらい】

初めて韓国語に接する学習者を対象に、文字の仕組みや発音の仕方などをしっかりおさえることで、韓国語能力の基礎作りを図ります。また、学習した文字を応用して、日常的な会話表現を身につけると同時に、韓国という社会や生活文化などにも触れることで、ことばと文化を結ぶ韓国語授業を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、あいさつ練習、ニーズ調査
2	基礎・第1～2課：韓国語の文字の仕組みと基本母音
3	基礎・第3課①：平音と発音練習
4	基礎・第3課②：激音と濃音の発音練習
5	基礎・第4課：複合母音の仕組みと発音練習
6	基礎・第5課：終声(パッチム)の仕組みと発音練習
7	基礎・第6課：発音の変化 / 韓国映画を楽しもう！
8	第1課：名詞文①「～は～です」
9	第2課：名詞文②「～は～ですか」
10	第3課：名詞文の否定表現「～ではありません」、指示詞「こ・そ・あ・ど」の活用
11	第4課：存在の「あります(います)/ありません(いません)」表現
12	第5課：用言文の丁寧表現①「します/しますか」の表現
13	第6課：用言文の丁寧表現②「します/しますか」のよりカジュアルな表現
14	第7課：用言文の活用①
15	名詞文と用言文における丁寧表現の比較と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験(40%)、出席(25%)、小テスト・課題(30%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ 韓国語講座（初級）』 国書刊行会 (2,100+税)

【参考文献】

辞書や参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語 I

担当教員 長嶺 聖子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=英米・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

初めて韓国語を学習する人でも楽しめる「話せる韓国語」を心掛けます。文法解釈はテキストを使用して韓国語と日本語の文法に関する多くの共通点や相違点を見分け、確実に韓国の文字「ハングル」の「読み」、「書き」が習得できるように練習します。

さらに、ラボ教室のCALLシステム及び教室の機器を利用し現在の韓国の情報を、歌、ドラマ、映画、インターネットなどを通して紹介します。達成目標は、韓国の文字「ハングル」を読めるようにすることです。

【授業の展開計画】

文法と会話及び文化について同時に行います。

週	授 業 の 内 容
1	基礎・第1課：「ハングル」の成り立ち 会話：簡単な自己紹介
2	基礎・第2課：母音字の書き方と発音 会話：さようなら
3	基礎・第3課：子音字の書き方と発音 会話：～と言います
4	基礎・第4課：複合母音 会話：民族衣装について
5	基礎・第5課：末音字（パッチム）の発音 会話：韓国の名前について
6	基礎・第6課：発音の変化 会話：先生の日
7	日本語の「ハングル」表記表 会話：単語カルタ
8	第1課：文の構造 会話：韓国TVの歌番組
9	第2課：助詞 会話：パソコンで文字入力
10	第3課：疑問文／否定文 会話：レストランで
11	第4課：存在詞 会話：ショッピング
12	第5課：します／しますか 会話：テコンドDVD
13	第6課：疑問詞 会話：韓国映画
14	第7課：丁寧な語尾練習 会話：約束
15	総まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

登録初日の出席は、必修条件です。出席しないと登録が取り消される可能性があります。

授業は段階的に構成されているので、出来るだけ遅刻・欠席はしないこと。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、課題(30%)、学期末試験(40%)、及び授業態度(5%)から総合的に評価します。

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します

韓国語 I

担当教員 宋 ミンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=人福(月木4)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(月木5)

【授業のねらい】

初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、基本的な文の構造の理解及び挨拶、自己紹介など簡単な会話ができることを目標とする。

音に慣れることから始め、文字と発音を正確に習得し、基礎語彙と文法の基本事項の習得を目指す。基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習と読む練習を繰り返す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、文字 (ハングル) の仕組み (基礎・第1課)
2	基本母音 (基礎・第2課)
3	基本子音 (基礎・第3課)
4	複合母音 (基礎・第4課)
5	パッチム (基礎・第5課)
6	発音の変化 (基礎・第6課)
7	小テスト & 韓国映画
8	第1課 名詞文 (挨拶と自己紹介)
9	第2課 名詞文の疑問形
10	第3課 名詞文の否定形・指示詞
11	第4課 存在詞の丁寧語尾
12	第5課 用言文の丁寧表現①
13	第6課 用言文の丁寧表現②
14	第7課 動詞・形容詞の丁寧表現(～ます・～です)
15	前期のまとめ・試験前の質問タイム
16	期末試験、フィードバック

【履修上の注意事項】

- 1 登録前に必ず指定学科と年次を確認し、その指定学科と年次を守って登録すること。
- 2 初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- 3 遅刻、授業中の携帯電話使用、私語は禁止。(減点対象になるので注意)
- 4 出席回数が3分の2に満たない者は、試験を受けることができない為、不可とする。

【評価方法】

期末試験 (40%) / 出席 (25%) / 小テスト・課題 (30%) / 授業態度 (5%)

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明 著 国書刊行会 (2,100円+税)

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

韓国語 I

担当教員 天久 恵珍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政・社文（月木3）、法律・地行（月木4）

【授業のねらい】

一番近い国の言葉として簡単な自己紹介、基本的な挨拶が出来るようにします。また、韓国の独特な文字である「ハングル」に対し、正しい発音が学習を通してしっかり出来るように練習します。それとともにテキストを使用して「文法」、「語彙力」、「読解力」も習得できるよう心掛けます。さらに、メディア、インターネットを通して韓国の最新情報やニュースを紹介しながら、生活習慣、文化に関して伝えていきます

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	基礎1：ハングルと韓国の紹介&沖縄と韓国の関係など
2	基礎2：基本母音について
3	基礎3：基本子音と二重子音について（ひらがなとハングルの比べ）
4	基礎4：複合母音について（日本語のハングル表記について）
5	基礎5：パッチム（終声）について
6	基礎6：発音の変化及び総合発音の小テスト
7	第1課：「～は」、「～です」について
8	第2課：「～が」、「～ですか」について
9	第3課：「～ではありません」について
10	韓国映画と歌（大衆文化）と小テスト
11	第4課：「あります・います」について
12	第5課：「します」のニダ体について
13	第6課：「します」のヨ体について
14	第7課：ハムニダ体について
15	総合応用について（自己紹介）及び前期講座のまとめ。
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- *初日の出席は必須条件です。出席しなければ登録は取り消される可能性があります。
- *指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率（25%）、授業への参加姿勢（5%）、期末試験（40%）、小テスト&課題（30%）とし評価します。

【テキスト】

「基礎から学ぶ韓国語講座 ・初級」（国書刊行会、2,100円 + 税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅱ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文・社文・企シ（月木3）

【授業のねらい】

韓国語Ⅰに続き、韓国語の基礎構造を着実に積んでいくことで、「聞いて話す」「読んで書く」という語学技能を自分のものにしていきます。また、文化の触れ合い学習にも力を入れることで、韓国の社会や文化を沖縄と比較してみましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：今学期の内容紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル・テスト
2	前学期の復習
3	第8課：用言文の活用②
4	第9課：漢数詞の練習（電話番号／誕生日／日時を尋ねる）
5	第10課：固有数詞の練習（年齢／物の数／時間を尋ねる）
6	漢数詞を用いて友達作り、固有数詞を用いて「買い物場面」にチャレンジ
7	第11課：尊敬表現の練習、日本の尊敬表現との比較
8	韓国映画を楽しもう！ / ムービーテレコを用いたセリフの練習
9	第12課：用言文における否定表現の練習
10	第13課；過去表現の練習
11	用言文全体の活用練習と会話
12	第14課：勧誘表現「～しよう／～しましょう(か)」の練習
13	第15課：現在進行表現「～している」
14	会話練習①：位置関係 / 会話練習②：～さんは何をしていますか？
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・韓国語Ⅰを履修済みであること。
- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験(40%)、出席(25%)、小テスト・課題(30%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ 韓国語講座（初級）』 国書刊行会 (2,100+税)

【参考文献】

辞書や参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 宋 ミンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=人福(月木4)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(月木5)

【授業のねらい】

韓国語Ⅰを履修した学生を対象に、聞いて話せる実用的な韓国語の習得を目指す。
 韓国語の基礎を固めるのに必要な単語・文法・慣用句などを覚え、実際の場面で表現できるよう声に出して繰り返し練習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期学習内容の確認①：ハングルの読み書きの復習
2	前期学習内容の確認②：語彙・文法の復習
3	第8課：用言の丁寧な形
4	第9課：漢数詞（金額、年月日、電話番号）
5	第10課：固有数詞（年齢、個数、人数、時間）
6	数詞の復習
7	小テスト
8	第11課：敬語（尊敬形）
9	第12課：用言の否定形
10	韓国映画
11	第13課：過去形
12	第14課：勧誘表現
13	第15課：現在進行形
14	作文練習・課題発表
15	総復習（8～15課）
16	期末試験、フィードバック

【履修上の注意事項】

- 1 指定学科と年次を守って登録すること。
- 2 初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- 3 韓国語Ⅰを履修済みであること。
- 4 遅刻、授業中の携帯電話使用、私語は禁止。（減点対象になるので注意）
- 5 出席回数が3分の2に満たない者は、試験を受けることができない為、不可とする。

【評価方法】

期末試験（40%）／ 出席（25%）／ 小テスト・課題（30%）／ 授業態度（5%）

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明 著 国書刊行会（2,100円＋税）

【参考文献】

辞書と参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

韓国語Ⅰに引き続き、韓国語の基礎構造を着実に積んでいくことで、「聞いて話す」「読んで書く」という語学技能を自分のものにしていきます。また韓国と沖縄の社会や文化の違いを比較し、韓国語より深く学んでもらいます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：今学期の内容紹介、自己紹介、ニーズ調査
2	前学期の復習①：複合母音、名詞文
3	第8課：用言文の活用②
4	第9課：漢数詞の練習（電話番号／誕生日／日時を尋ねる）
5	漢数詞を用いて友達作り
6	第10課：固有数詞の練習（年齢／物の数／時間を尋ねる）
7	固有数詞を用いて「買い物場面」にチャレンジ
8	韓国映画を楽しもう！
9	第11課：尊敬表現の練習、日本の尊敬表現との比較
10	第12課：用言文における否定表現の練習
11	第13課：過去表現の練習
12	第14課：勧誘表現「～しよう／～しましょう（か）」の練習
13	第15課：現在進行形「～している」／依頼の表現「～してください」の練習
14	韓国文化
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・韓国語Ⅰを履修済みであること。
- ・初回の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。（登録調整期間中は受講人数調整のため、申し出なく複数回欠席した場合、受講意思が無いものとみなし登録が取り消される恐れがあるため特に注意すること。）
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加し、授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験（40％）／出席（25％）／課題（30％）／授業態度（5％）の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ韓国語講座（初級）』 国書刊行会 （2,100+税）

【参考文献】

辞書や参考書については、必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 天久 恵珍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政・社文（月木3）、法律・地行（月木4）

【授業のねらい】

韓国の独特な文字である「ハングル」に対し、正しい発音が学習を通してしっかり出来るように練習しながら、前期の文法を会話に応用し、「丁寧体」、「尊敬体」をできるようにします。また、韓国学生の最新情報や考え方も前期と同様にメディア、インターネットを通して紹介するよう心掛けます。さらに、テキストの「文法」、「読解力」も理解し、独自の応用が出来るようにします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第8課：「へヨ」体について
2	第8課：「へヨ」体のまとめ
3	第9課：「漢数詞」について
4	第9課：「月・日」について
5	第10課：「固有数詞」について
6	第10課：「時間」について
7	映画鑑賞及び小テスト
8	第11課：「敬語」について
9	第12課：「否定形」について
10	第12課：「否定形」のまとめ
11	第13課：「過去形」について
12	第13課：「過去形」のまとめ
13	第14課：「勧誘形」について
14	第15課：「してください」について
15	総合応用及びまとめ。
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- *必ず韓国語Ⅰを履修済みである事。
- *初日は出席が必須条件です。出席しなければ登録が取り消される可能性があります。
- *指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、授業への参加姿勢(5%)、期末試験(40%)、小テスト・課題(30%)とし評価します。

【テキスト】

「基礎から学ぶ韓国語講座・初級」(国書刊行会、2,100円 + 税)

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅱ

担当教員 長嶺 聖子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=英米・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

この講義は、韓国語と日本語の語順がほぼ同じであるというメリットを活かし、「読む」ことを楽しむ形式で進めると同時に、日常生活を中心とした会話学習を通して「会話」の幅を広げます。さらに、ラボ教室のCALLシステム及び教室の機器を利用し韓国の文化や現在の韓国の情報を、歌、ドラマ、映画、インターネットなどを通して紹介します。達成目標は、「ハングル」の文を読めるようにし、話し相手に合う言い方を覚えることです。

【授業の展開計画】

文法と会話及び文化について同時に行います。

週	授 業 の 内 容	
1	第8課：打ち解けた丁寧な語尾	会話：お久しぶりです
2	DVD「韓国留学150日」	会話：いただきます
3	第9課：漢教詞	会話：誕生日の歌
4	単語カード読み	会話：韓国語で～と言います
5	第10課：固有数詞	会話：歌
6	助数詞（単位）	会話：電話番号
7	第11課：尊敬語の語尾	会話：敬語の使い方
8	丁寧な命令文	会話：韓国のドラマ
9	第12課：連結語尾（条件）	会話：DVD「ソウルの名所」
10	否定文の練習	会話：ダ体（パンマル）の表現
11	第13課：過去形	会話：韓国のセンター試験
12	過去形の練習：プリント	会話：韓国のお正月
13	第14課：勧誘形	会話：韓国映画
14	第15課：進行形	会話：感嘆の表現
15	総まとめ	
16	期末試験	

【履修上の注意事項】

韓国語Ⅰを履修した学生を対象としています。

登録初日の出席は、必修条件です。出席しないと登録が取り消される可能性があります。指定学科と学年を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、課題(30%)、学期末試験(40%)、及び授業態度(5%)から総合的に評価します。

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅲ

担当教員 李 ヒョンジョン（月5）、岸本 孝根（木5）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

この授業では、韓国語の中級レベルに進むための段階として、初級レベルにおける重要ポイントをもう一度振り返ります。また、ペアティーチングにより、正確な読み・書き能力を備え、学習した文型を会話の運用力に活かせるスキルを持つ学習者を目指します。具体的には、月曜日は会話・音声中心、木曜日は文法・文型中心の授業構成になっています。テキスト以外の話題も扱うことで、より韓国・韓国語を楽しんでいきましょう！

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、ニーズ調査
2	レベル確認及び初級の振り返り
3	初級・第15課 現在進行表現「～ている」
4	初級・第16課 可能・不可能の表現「～することができる／～することができない」
5	初級・第17課 希望・意志を表す表現「～したい」
6	初級・第18課 許諾「～してもいい」／許諾を求める表現「～してもいいですか」
7	初級・第19課 義務を表す表現「～しなければならない」
8	韓国映画を楽しもう！
9	初級・第20課 推量および意志「～と思います／～するつもりです」
10	初級のまとめ / 不規則活用・連体形の練習
11	中級・第1課 動作の原因および様態「～して／～なので」
12	中級・第2課 形容詞・指定詞の連体形
13	中級・第3課 動詞・存在詞の連体形
14	中級・第4課 逆接「～であるが」、二つの動作「～しながら～する」
15	総復習、会話テスト
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席はもちろん、授業でのペアー活動・グループ活動には積極的に参加すること
- ・授業以外の自習と課題にも力を入れること

【評価方法】

- ・期末試験(40%)、出席(25%)、小テスト・課題(30%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座（初級）』 国書刊行会（2,100円＋税）
 木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座（中級）』 国書刊行会（2,100円＋税）

【参考文献】

- ・辞書：『朝鮮語辞典』小学館（必修ではないが、持参をお勧めする）
- ・その他の参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅳ

担当教員 李 ヒョンジョン（月5）、岸本 孝根（木5）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

韓国語の中級学習者としてよりレベルの高いコミュニケーション能力を身につけるための文型および語彙選択のスキルアップを目指します。授業構成は韓国語Ⅲと同様、ペアティーチングとなります。授業全般において積極的に参加することで、自分の意思を伝達し、相手の意見と調整できるように力をつけていきましょう！

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル確認
2	不規則活用の復習と会話練習
3	連体形の復習と会話練習
4	第5課 経験の有無を表す表現①「～してみる」
5	第6課 経験の有無を表す表現②「～したことがある(ない)」
6	第7課 理由を表す表現「～なので」、他の理由表現との比較
7	第8課 意志を表す表現「～しようと」
8	韓国映画を楽しもう！
9	グループ活動：Movie Teleco字幕付け作業
10	第9課 「～し始める」表現、「～するなり」表現
11	第10課 勧誘表現「～しましょうか」、他の勧誘表現との比較
12	第11課 願望を表す表現「～したらよいのだが」
13	第12課 「～時」表現の様々な形を練習
14	地図、買い物、位置関係などの会話練習
15	会話テスト、総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席はもちろん、授業でのペアー活動・グループ活動には積極的に参加すること
- ・授業以外の自習と課題にも力を入れること

【評価方法】

- ・期末試験(40%)、出席(25%)、小テスト・課題(30%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座（中級）』 国書刊行会（2,100円＋税）

【参考文献】

- ・辞書：『朝鮮語辞典』小学館（必修ではないが、持参をお勧めする）
- ・その他の参考書については必要に応じて授業で紹介する。

スペイン語 I

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

はじめてスペイン語を学ぶ学生のための入門クラス。講義ではテキスト・作成プリントを主としスペイン語の基礎を学び、単語、文法、及び簡単な会話ができるようになる。また、正しい発音、会話の練習の後に、オーラルチェックを行う。音楽や歌詞などを用いて興味を覚える。ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduccion
2	Alfabeto
3	アクセントの位置
4	名詞の性・数
5	定冠詞・不定冠詞
6	形容詞
7	復習、小テスト（1）
8	Ser 動詞
9	Estar 動詞
10	Ser と Estar動詞の違い
11	規則動詞（1）
12	規則動詞（2）
13	規則動詞（3）
14	所有詞 小テスト（2）
15	総復習
16	期末テスト（3）

【履修上の注意事項】

二重登録に注意してください。
授業の疑問点を質問して下さい。

【評価方法】

テスト（3回X3＝90点）を行う。
発音、会話のオーラルチェック（10点）を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

El Espanol（教室で販売）
授業の進行状況に添った練習問題のプリントも使用する。

【参考文献】

スペイン語 I

担当教員 赤嶺 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米（月木3）、法律・地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

スペイン語はスペインのみならず中南米やアフリカなど約四億人の人々によって話されている言語です。本講義では、文部科学省認定スペイン語技能検定6級の出題範囲である基礎文法の習得を目指します。さらにCDやDVDで、スペイン語の背景にある文化、社会、歴史、芸術に触れていきます。週一回、CALL教室を使用する予定です。CALL教室では、ムービーテレコ、スカイプ、webカメラなどを使用して、スペイン語でコミュニケーションをとれるようになるためのトレーニングを行います。

【授業の展開計画】

- 1週目 スペイン語の概要，アルファベット
 - 2週目 スペイン語の発音，アクセントの位置，主格人称代名詞
 - 3週目 名詞の性と数，定冠詞，不定冠詞
 - 4週目 動詞serの直説法現在
 - 5週目 動詞serの直説法現在，形容詞の性と数
 - 6週目 動詞serのまとめ
 - 7週目 小テスト②（動詞ser），動詞estarの直説法現在
 - 8週目 動詞estarと動詞serの比較
 - 9週目 動詞estarと動詞serの比較のまとめ
 - 10週目 小テスト③（動詞estar），直説法現在の－ar動詞，基数
 - 11週目 直説法現在の－ar動詞，疑問詞
 - 12週目 直説法現在の－er動詞
 - 13週目 直説法現在の－er動詞
 - 14週目 直説法現在の－ir動詞
 - 15週目 直説法現在－ar動詞，－er動詞，－ir動詞のまとめ。
- 31回目にテスト(－ar, －er, －ir)のテストを行います。

【履修上の注意事項】

辞書は必携です。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

小テスト 45%
期末テスト 35%
授業への参加 20%

【テキスト】

尚真貴子・福地恭子・小波津フェルナンド・又吉パトリシア著『ディエゴと日本再発見！』朝日出版社 2013年 2,415円

【参考文献】

坂東省次著『文化と歴史で学ぶスペイン語』780円/立岩礼子・伊藤ゆかり著『スペイン語技能検定4級・5級・6級対策問題集』1500円/立岩礼子・伊藤ゆかり・福地恭子著『スペイン語技能検定6級直前対策問題』2000円

スペイン語 I

担当教員 小波津 フェルナンド

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=日文・社文(月木3)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(火金2)

【授業のねらい】

4億5千万人ぐらいの人口、20ヶ国で公用語として話されているスペイン語を楽しく、明るく学ぶ授業にします。外国語に興味を持たせて、自分は外国語をマスター出来る！そのヒントを与えてくれる科目にしたい！！スペイン語圏はこんなに面白くて、こんなに日本と違うなと思わせる授業です。但し、せっかく学ぶのであれば、挨拶程度のレベルでは満足しないで下さい。自らの積極性はとても大切にする授業です！

【授業の展開計画】

「「授業のねらい」の続き～

スペイン語は、日本人にとって発音が易しいとも言えますが、文法的に難しい点は、動詞の活用です。そこで、本講義では、動詞の活用を直説法現在形に絞って学習し、口頭での受け答え練習や、時には、英語との比較対照を通して、スペイン語の文法的特徴に慣れてもらいます。また、ビデオ教材(街の風景、音楽)なども使用して、スペイン、ラテンアメリカの社会や文化に関する話題も導入します。

- 1 スペイン語の世界： 教室で使う挨拶、話す国々、使用状況
- 2 スペイン語の特徴： アルファベット・母音・子音とその発音
- 3 注意に必要な綴りと発音・アクセント・疑問文と否定文 文化コーナー： スペイン語圏の生活
- 4 名詞の性と数・冠詞 (un amigo, una amiga, unos amigos, unas amigas)
- 5 Hayの用法：不特定な人や物が存在しているかどうかを表す(英語のThere is, there are)
- 6 主語人称代名詞。 動詞serの直説法現在(出身地、主語の特徴、職業を言う)
- 7 冠詞 と 形容詞のはたらき (名詞との関連性) 文化コーナー： スペイン語圏の人気スポーツ(この時期、さらに数字、職業、国、言語、国籍。接続詞：y (and), o (or), pero (but)を学びます。
- 8 動詞estarの直説法現在：主語の居場所を表す。
- 9 不定語と否定語。 文化コーナー： スペイン語圏の有名な人物
- 10 動詞の直説法現在形(規則活用)：-ar、-erと-ir動詞 (話す、食べる、住む)
- 11 前置詞、所有形容詞。 疑問詞 文化コーナー： スペイン語圏の世界遺産
- 12 時間の表し方：Que hora es?
- 13 感嘆文、天候表現、目的格人称代名詞 文化体験コーナー： ペルーの食文化『紫のトウモロコシ?』
- 14 Gustar型動詞、比較級、最上級、不定詞を用いた命令
- 15 スペイン語Iの復習とまとめ 文化コーナー： スペイン語圏のジェスチャー
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

ノートと辞書は必携です。外国語学習には単語の意味を知る必要が有ります。指定学科と年次を守ってください。

【評価方法】

教科書のドリル問題やタスクの完成、中間と期末テストの成績結果、出席、授業態度(積極性、努力、居眠りは注意されます)。

【テキスト】

朝日出版社 「ディエゴと日本再発見 - 初級スペイン語 -」 CD付 ISBN978-4-255-55058-9 C1087 Y2300E) (スペイン語名：BIENVENIDOS A JAPON!)

【参考文献】

辞書一冊：電子辞書 か『スペイン語ミニ辞典』(白水社)』 又は『現代スペイン語辞典』(白水社)』 それとも 『西和辞典』(小学館)』

スペイン語 I

担当教員 又吉 パトリシア

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=経済・環政・企シ・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

この講義では、主に初めてスペイン語を学ぶ学生のためのクラスです。講義ではスペイン語の基礎を学び、役に立つ会話を習得し、自己紹介ができるようにと目的とします。また副教材として歌やDVD教材などを利用してスペイン語圏の世界を紹介していきます。

【授業の展開計画】

- 1週目： 世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介。あいさつ
- 2週目： スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント)
- 3週目： 名詞の性と数、定冠詞(定冠詞,不定冠詞)、数字0~10
- 4週目： 主語人称代名詞、SER動詞の直接法現在形の活用
- 5週目： ESTAR動詞とHAY動詞の直接法現在形の活用、場所を尋ねる
- 6週目： 形容詞、SER動詞とESTAR動詞の比較
- 7週目： -ar動詞の直説法現在形の活用、前置詞
- 8週目： -erと-ir動詞の直説法現在形の活用、疑問詞
- 9週目： 時刻と日付を表す(数字：11~、曜日、月)、感嘆文
- 10週目： 日常生活について話す(動詞の直説法現在形の復習)、天気表現
- 11週目： 所有形容詞、家族の紹介、縮小辞
- 12週目： 値段の聞き方、買い物とレストランでの会話
- 13週目： 間接目的格人称代名詞、GUSTAR型の動詞の活用、比較
- 14週目： 口頭テストのための作文を書く、スペインの夏祭りの紹介
- 15週目： 復習、期末テスト・回答
- 16週目： 自己紹介また家族の紹介についての発表、前期のまとめ

【履修上の注意事項】

- 復習は必ずしてきてください(特に動詞の活用)。積極的な授業への参加が望まれます。
- 毎回テキストとノートを持参すること。また、配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。
- 前学期・後学期続けて同じクラスでの授業を取ることを望む。
- スペイン語IIを受講するにはスペイン語Iを合格していることを条件とする。

【評価方法】

最終評価は次の点の合計点とする：

- 1) 出席(10点) 授業総時間数の1/3(10回)以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻は欠席扱いとする。
- 2) テスト(60点) 小テスト、中間及び期末テストを行う(筆記、口頭テスト)
- 3) 宿題及び課題の提出 (20点)
- 4) 授業参加、態度(10点)

【テキスト】

『Bienvenidos a Japon!』 ディエゴと日本再発見!-初級スペイン語-

著者：尚真貴子、福地 恭子、小波津 フェルナンド、又吉 パトリシア (朝日出版社)

定価：2,300円 + 税

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社¥2,800/「西和中辞典」桑名一博、他編 小学科¥5,800/「和西辞典」有本、宮城、他 白水社¥4,500/「現代スペイン語辞典」宮城、山田、他 白水社¥4,000 ※スペイン語電子辞書も使用可

スペイン語Ⅱ

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

後期は、前期を履修した上で残りの基礎を前期と同様に学び、更に教養を広める。講義ではテキスト、作成プリント、LL教材を使用する。また、ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。特に、スペイン語を修得し、スペイン語圏（スペイン、中南米）の文化・習慣を知ることによって、相互に理解しあえるようにしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientación (1) (2)
2	スペイン語Ⅰの復習 (L. 1-4) (L. 5-7)
3	L. 19 指示形容詞 / 所有形容詞
4	L. 8 天気 / 天候
5	L. 8 疑問詞
6	L. 9 点過去形 -ar, -er, -ir
7	L. 9 月・日
8	復習 / 小テスト (1)
9	L. 10 不完了過去 -ar
10	L. 10 不完了過去 -er / -ir
11	L. 11 未来形
12	L. 12 gustar 動詞 / 小テスト (2)
13	L. 12 現在進行形
14	L. 13 再帰動詞
15	総復習
16	期末試験

【履修上の注意事項】

スペイン語Ⅰを習得した学生。
前期、後期と続けて授業を受けることを望む。
意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

テスト (3回X3 = 90点) を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に (10点) 入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

Lecturas Culturales El Espanol (前期と同じ)

【参考文献】

授業の進行状況に沿った練習問題のプリントを使用する。

スペイン語Ⅱ

担当教員 又吉 パトリシア

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=経済・環政・企シ・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

スペイン語Ⅰの続きです。前期に単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にするため動詞の活用が中心になりますが、今回は不規則動詞、再帰動詞の活用や現在進行形、現在完了形、過去形など少し複雑な文法事項を学びます。日常会話のより高度な段階をめざし、簡単なスペイン語文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とします。スペイン語Ⅰと同様、副教材として歌やDVD教材などを利用し文法事項およびスペインと中南米の社会、文化事情、生活習慣を紹介していきます。

【授業の展開計画】

- 1週目：前期で学んだ文法項目と表現の復習
- 2週目：不規則動詞QUERERの直説法現在形の活用
- 3週目：不規則動詞PODERの直説法現在形の活用
- 4週目：不規則動詞TENERの直説法現在形の活用
- 5週目：不規則動詞IRの直説法現在形の活用
- 6週目：SABERとCONCER動詞の現在形の活用と違い
- 7週目：助動詞のまとめと規則と不規則動詞の直説法現在形の活用の復習
- 8週目：再帰動詞の直説法現在形の活用
- 9週目：一日の行為について語る、現在分詞、直説法現在形進行形
- 10週目：スペイン語圏の国々クリスマスとお正月行事、習慣の紹介
- 11週目：過去分詞、直説法現在形完了形
- 12週目：直説法点過去形の活用
- 13週目：直説法線過去過去の活用
- 14週目：口頭テストのための作文を書く、期末テスト・回答
- 15週目：スペイン及びラテンアメリカの映画の紹介、命令形
- 16週目：前期と後期で学んだ文法項目と表現の復習とまとめ

【履修上の注意事項】

- 復習は必ずしてきてください（特に動詞の活用）。積極的な授業への参加が望まれます。
- 毎回テキストとノートを持参すること。また、配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。
- 前学期・後学期続けて同じクラスでの授業を取ることを望む。
- スペイン語Ⅱを受講するにはスペイン語Ⅰを合格していることを条件とする。

【評価方法】

最終評価は次の点の合計点とする：

- 1) 出席(10点) 授業総時間数の1/3(10回)以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻は欠席扱いとする。
- 2) テスト(60点) 小テスト、中間及び期末テストを行う(筆記、口頭テスト)
- 3) 宿題及び課題の提出 (20点)
- 4) 授業参加、態度 (10点)

【テキスト】

『Bienvenidos a Japon!』 ディエゴと日本再発見！-初級スペイン語-

著者：尚真貴子、福地 恭子、小波津 フェルナンド、又吉 パトリシア (朝日出版社)

定価：2,300円 + 税

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社¥2,800/「西和中辞典」桑名一博、他編 小学科¥5,800/[和西辞典]有本、宮城、他 白水社¥4,500/「現代スペイン語辞典」宮城、山田、他 白水社¥4,000 ※スペイン語電子辞書も使用可

スペイン語Ⅱ

担当教員 赤嶺 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 1年次対象 英米（月木3）、法律・地行・人福（月木4）

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

スペイン語Iで学んだ文法事項を反復練習しながら新しい事項を学んでいきます。また、スペイン語IとIIで習得した表現を用い、旅行や留学先などで簡単なコミュニケーションが行える力をつけていきます。この講義内容は文部科学省認定スペイン語技能検定5級の出題範囲です。検定試験は春と秋に実施されますので、履修後は積極的に受験して下さい。週1回、CALL教室を使用する予定です。CALL教室では、スペイン語でビデオレター、映画の吹き替え、ムービーの作成といった様々なアクティビティを行い、スペイン語力の向上を目指します。

【授業の展開計画】

- 1週目 スペイン語Iの復習①, 時刻の表現
- 2週目 スペイン語Iの復習②, hayの用法, 動詞estarと動詞hayの比較
- 3週目 スペイン語Iの復習③, 所有格形容詞
- 4週目 直説法現在の不規則動詞①ir
- 5週目 直説法現在の不規則動詞②querer
- 6週目 直説法現在の不規則動詞③poder
- 7週目 直説法現在の不規則動詞④tener
- 8週目 直説法現在の不規則動詞のまとめ
- 9週目 中間テスト
- 10週目 gustar型動詞, 目的格人称代名詞
- 11週目 現在分詞, 現在分詞の用法
- 12週目 再帰動詞
- 13週目 直説法完了過去の規則動詞と不規則動詞, 直説法不完了過去と規則動詞と不規則動詞, 直説法完了過去と直説法不完了過去の比較
- 14週目 過去分詞, 現在完了形, 命令形
- 15週目 未来形, スペイン語IIのまとめ
- 31回目 期末テスト

【履修上の注意事項】

スペイン語Iを履修済みであることが望ましい。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

- 中間テスト 35%
- 期末テスト 35%
- 課題 30%

【テキスト】

尚真貴子・福地恭子・小波津フェルナンド・又吉パトリシア著『ディエゴと日本再発見!』朝日出版社 2013年 2,415円

【参考文献】

高橋寛二著『テーブル式基礎スペイン語便覧』2300円/立岩礼子・伊藤ゆかり著『スペイン語技能検定4級・5級・6級対策問題集』1500円/立岩礼子・伊藤ゆかり・安田圭史著『スペイン語技能検定5級直前対策問題』2000円

スペイン語Ⅱ

担当教員 小波津 フェルナンド

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=日文・社文(月木3)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(火金2)

【授業のねらい】

基礎スペイン語Ⅰの続きです。スペイン語の基礎表現を発信できることは目標にします。コミュニケーションが無ければ外国語の学習の意味とは？を課題に授業展開します。

スペイン語の複雑な文法事項に負けず、基礎スペイン語Ⅰと同様、適宜に視覚教材などを使用します。言語の学習と並行して、スペイン語圏世界の社会や文化事情に関するビデオ映像（ドキュメンタリー、映画）なども可能な限り鑑賞します。最終目標はスペイン語の特徴を理解する、基礎表現を言える、さらに色々を学びたい！

【授業の展開計画】

- 1 前期の表現と文法の復習 (Hola!, Que tal? Como estan?)
- 2 語根母音変化動詞 I: 欲する (querer)、出来る (poder) 動詞 文化コーナー: スペイン語圏への旅
- 3 所有を表す表現: tener
- 4 未来を表す表現 (ir動詞、未来形の代用): Voy a comer con mis amigos en un restaurante.
- 5 前置詞: a, de, en, con, por, paraを学ぼう!
- 6 Saberとconocer動詞、関係代名詞 文化コーナー: スペイン語圏の人物『ドン・キホーテ』
- 7 普段は何をしていますか?: 日常生活を説明する。 疑問詞
- 8 語幹母音変化動詞 I 文化コーナー: バルセロナの世界遺産
- 9 再起動詞 (立つ、起きる) 日常生活: 朝から晩までの行動を説明する
- 10 現在分詞 (進行形)・過去分詞 (現在完了) 文化コーナー: スペイン語圏の博物館
- 11 過去の表現。 点過去: 『～した』 ・ 線過去: 『～していた、～なのだが』
- 12 未来形: 『～するだろう、～だろうか』
- 13 過去未来形: 『～しただろう』 文化コーナー: スペイン語圏の食文化II
- 14 条件文 (もしも～なら、～だ)。 表現力を増やす
- 15 スペイン語Ⅱの復習とまとめ
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

ノートと辞書は必携です。外国語学習には単語の意味を知る必要が有ります。
指定学科と年次を守ってください。

【評価方法】

教科書のドリル問題やタスクの完成、中間と期末テストの成績結果、出席、授業態度（積極性、努力、居眠りは注意されます）。

【テキスト】

朝日出版社 「ディエゴと日本再発見 - 初級スペイン語 -」 CD付 ISBN978-4-255-55058-9 C1087 Y2300E) (スペイン語名: BIENVENIDOS A JAPON!)

【参考文献】

辞書一冊: 電子辞書 か『スペイン語ミニ辞典』(白水社)』 又は『現代スペイン語辞典』(白水社)』 それとも 『西和中辞典』(小学館)』

スペイン語Ⅲ

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

スペイン語 I・II の基礎を復習した後に、ラテン・アメリカの事情を題材にした易しい読み物をテキストとして見聞を拡充し、音楽やスペイン語検定試験の問題などを用いて関心を高める。ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientación (1) (2)
2	スペイン語 I-II の復習 (1) (2)
3	L. 9, 11 (過去形、未来形) の復習
4	L. 12, 14 (進行形、再起動詞) の復習
5	会話 (1)
6	L. 15 不規則動詞現在形
7	L. 15 比較級
8	小テスト (1)
9	L. 16 不規則動詞点過去形
10	L. 16 過去未来
11	L. 16 目的語代名詞
12	L. 17 形容詞 / 会話 (2)
13	L. 18 詞の講読
14	L. 19 感嘆文
15	L. 20 関係代名詞 / 総復習
16	オーラルテスト (2)

【履修上の注意事項】

二重登録のないように注意してください。
スペイン語 I、II を習得済みの学生。

【評価方法】

テスト (2回) を行う。
発音、会話のオーラルチェックを行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

Lecturas Culturales El Espanol (Yasui Yuuichi)

【参考文献】

授業の進行状況によって作成したプリントを使用します。

スペイン語Ⅳ

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

後期は、前期を履修した上でテキストの残りを、前期と同様に学び、更に教養を深める。また、ビデオを用いて、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣を紹介することによって、記憶に残る教養を身に付けたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientación (1) (2)
2	スペイン語 III の復習
3	L. 11 不規則動詞未来形の複数
4	L. 12 接続法現在 (1) (2)
5	L. 14 不規則命令形
6	L. 14 接続法過去
7	復習
8	小テスト (1)
9	L. 15 不規則比較級
10	L. 16 不規則過去未来
11	L. 20 縮小語と増大語
12	L. 21 現在分詞の用法
13	L. 22 再起動詞の不規則
14	L. 22 現在完了
15	総復習
16	オーラルテスト (2)

【履修上の注意事項】

前期、後期と続けて授業を受けることを望む。
 スペイン語 I、II、IIIを取得済みの学生。
 継続は力なり。

【評価方法】

テスト2回行う。
 発音、会話のオーラルチェックを行う。
 出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
 授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

Lecturas Culturales El Espanol 共著「Yuuichi Yasui」弘学社 2,000円

【参考文献】

作成したプリントを使用します。

中国語会話を楽しむ I

担当教員 顔 瑾

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考 水5

【授業のねらい】

このクラスは、中国語を学習するというよりは「中国語で会話を楽しむ」のが目的です。これまで学習した中国語の文型、語彙を駆使して会話をしましょう。話すことに慣れるのが一番の目的です。

【授業の展開計画】

中国語での会話を楽しむクラスですが、トピックを提示して会話をします。会話の中で次の項目を意識しながら進めます。

1. 話題への理解
2. 発音の確認
3. 文型の確認
4. 聴解の訓練

トピックは2週で変えていきますが、事前にみなさんに提示します。

【履修上の注意事項】

話すことが目的です。積極的な発言が大切です。会話の中では文法的間違いは当然です。（母語者でも間違えます）前もって、少しの予習や言いたいことの準備をしましょう。

【評価方法】

会話への参加度を総合的に評価しますが、次のような目安があります。

発話の積極性が	50%
話題への準備度	30%
理解度	20%

【テキスト】

特に指定しません。
トピックは講義で提示します。
辞書は各自準備してください。

【参考文献】

これまで使った中国語の教科書。その他、中国語で記された書籍
「中国文化の輪」 駿河台出版
「合格る中国語」 朝日出版社

中国語会話を楽しむⅡ

担当教員 顔 瑾

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考 水5

【授業のねらい】

中国語で会話を楽しむクラスです。
話題を提示して皆さんでおしゃべりをします。
大きな声で、自信をもって話せるようにしましょう。

【授業の展開計画】

これまで培った中国語力を駆使して積極的に会話しましょう。

講義の初日に話題について話し合い、決定します。
(話題のリストは教員が提示しますが、みなさんが興味のある話題も加えます)

一つの話題に2回の講義時間を使います。(5話題)
また、読み物を用意して、それについて話し合います。(2文献)

【履修上の注意事項】

後期はイベントが多く、しっかりと計画して学習しないと身に付いた会話力が低下します。

辞書やこれまで使った教科書を利用して、話題の予習や準備をしましょう。
辞書は必携です。

【評価方法】

話題への積極的参加(発話の頻度)を主として評価します。40%
予習や準備は発話に現れます。40%
理解度(聴解) 20%

【テキスト】

講義の初日に決定します。
特定の教科書はありません。

【参考文献】

辞書
その他、中国語で書かれた書籍

中国語 I

担当教員 -児玉 啓子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1～4年次対象：社文（月木3）

【授業のねらい】

まず、中国語普通話の発音記号を修得し、それから教科書を中心に、中国語簡体字や文法項目を学習します。最終的に、600～700語の中国語単語と40項目の文法事項を修得した上、自己紹介や基本的な会話をマスターすることを目標とします。授業はパソコン教室でのCALLシステムを応用した授業と一般教室での授業を交替した形で行います。従来の語学学習の内容に中国語漢字の入力訓練やウェブ教材の内容を取り入れ、単語の読み書き訓練を強化し、会話の修得と共に、学習内容の幅を広げ、中国の社会や文化への理解を深めるねらいです。

【授業の展開計画】

基本技能（発音、ピンインの読み書き、声調）の習得を優先する。

次に教科書に沿って展開する。

習得が遅い学生、早い学生がいるが、学期末には全員が同等の習得レベルになる。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（成績評価の詳細、学習上の心得、ウェブ問題の紹介）
2	中国語とは ①中国の概況 地理、歴史、民族、言語 ②簡体字について ③発音記号について
3	中国語の発音Ⅰ ①声調 ②単母音 ③入力練習
4	中国語の発音Ⅱ ①複合母音 ②子音 ③発音練習
5	中国語の発音Ⅲ ①鼻母音 ②軽声 ③声調の変化 ④入力訓練
6	中国語の発音Ⅳ 発音編総復習
7	第1課 第2課
8	第3課 第4課
9	総復習
10	第5課 第6課
11	第7課 第8課
12	総復習
13	ウェブ問題 質疑応答
14	模擬試験
15	学期末試験
16	総復習

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

優先順位は、1年次、4年次、2年次、3年次の順になります。

【評価方法】

主にウェブ上のクイズと期末試験を中心に成績評価を行いますが、教科書の各課の口頭テスト（読み）の正確さも重要な加点となります。

【テキスト】

『簡明 基礎中国語』 高山乾忠 （白帝社）

【参考文献】

クラス内で適宜紹介します。

中国語 I

担当教員 金田 知子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文（月木3）、人福（月木4）

【授業のねらい】

本授業では、まず中国語の発音構造を理解させ、基本語彙、表現を繰り返し、練習を行います。また、基本的な文法項目を理解させた上、簡単な会話や自己紹介などができることを目指します。

初めて中国語を学ぶ人でも楽しめるレッスンであるように心がけ、講義を進めながら、中国人のものの考え方、生活習慣などを紹介し、中国語を習得すると共に異文化理解を深めていくことも目標とします。

【授業の展開計画】

*習熟度により多少変更あり。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・アンケートを実施する	17	まとめテスト2
2	第1課 発音（一）	18	第7課 「是」を用いる文・指示代名詞1
3	復習・練習	19	復習・練習
4	第2課 発音（二）	20	応用・小テスト
5	復習・練習	21	第8課 指示代名詞2・動詞文・方位詞
6	第3課 発音（三）	22	復習・練習
7	復習・練習	23	応用・小テスト
8	まとめテスト1	24	第9課 数字を使う表現色々
9	第4課 挨拶	25	復習・練習
10	復習・小テスト	26	応用・小テスト
11	第5課 形容詞・比較表現	27	まとめテスト3
12	復習・練習	28	第10課 「有」を用いる文・量詞
13	応用・小テスト	29	復習・練習
14	第6課 名前の言い方・人称代名詞	30	応用・小テスト
15	復習・練習	31	期末試験
16	応用・小テスト		

【履修上の注意事項】

- ①中国語を学ぶ第一歩は発音である。発音を正確にできるためには、声を出すことが要求される。
- ②毎課ごとに小テストがある。
- ③遅刻、授業中の携帯電話の使用、私語等が禁じられる。
- ④原則として追加試験、再試験は実施しない。
- ⑤指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

習得度測定テスト(全校統一テスト)	60%
小テスト	30%
出席状況	10%

【テキスト】

『初級中国語 教科書+参考書』 小川郁夫 著 白帝社

【参考文献】

『北京の街角で』（本校CALL教室）

中国語 I

担当教員 田添 暢彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政（月木3）、地行（月木4）

【授業のねらい】

中国語の音声に慣れ、ピンイン表記を正確に習得し、基礎語彙と文法の基本事項の習得を目指す。

【授業の展開計画】

読む・書く・話す・聞くの4技能のバランスよい習得を目指します。受講者はほぼ毎回発言の機会があります。

週	授 業 の 内 容
1	導入と動機付け。中国語の概要、中国語を学ぶメリットとは？
2	ピンイン表記と発音（1）あいさつ表現
3	ピンイン表記と発音（2）自己紹介
4	ピンイン表記と発音（3）「これは私の本です」
5	ピンイン表記と発音の総まとめ 前半の総復習
6	「我が家は3人家族です」
7	「私は10月2日生まれです」
8	年月日、曜日の言い方 語気助詞「了」 疑問詞「多」
9	「今、12時半です」
10	時間を表す語句 連動文 完了を表す「了」 動作の持続時間
11	「我が家は東京にあります」
12	場所を表す指示代名詞 存在を表す「在」 介詞
13	「私は日本食が好きです」
14	動詞「喜歡」 部分否定を表す「不太」過去の経験を表す「過」離合詞 動詞の重ね型
15	前期のまとめ テスト前の質問タイム
16	学期末テスト

【履修上の注意事項】

中国語 I の単位が取得できなかった人は後期の中国語 II を履修できないので注意すること。

【評価方法】

学期末の試験および授業での取り組みを総合的に評価します。3分の1以上欠席すると不可になります。

【テキスト】

開講時に指示します。

【参考文献】

木村英樹（1996）『中国語ははじめの一步』ちくま新書
 相原茂ほか共著（1996）『Why?にこたえる中国語のはじめての文法書』同学社
 白井恭弘『外国語学習に成功する人、しない人』岩波科学ライブラリー 岩波書店

中国語 I

担当教員 車 莉莉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=企シ（月木3）、2～4年次対象=日文・英米・人福（月木5）

【授業のねらい】

外国語によるコミュニケーション力を獲得するには、まず発音、語彙、文法など基礎的なものを順次に学び、「分かる、話せる」ために、しっかりと土台を作っておかなくてはならないと言う語学教育の見地に基づき、前期では、主に発音の習得を重点に据え、授業を進める予定とします。声調（アクセント）を伴うピンイン（中国語の発音記号）を正確に読むことと聞き取ること为目标とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明、発音記号一単母音と声調	17	第二課 練習
2	発音記号一単母音、子音と声調	18	まとめ、小テスト、第三課
3	発音記号一単母音、子音と声調	19	第三課 単語朗読とピンイン聞き取り
4	発音記号一子音、複母音と声調	20	第三課 「有」述語文構成説明、練習
5	発音記号一子音、複母音と声調	21	第一、二課の復習、第四課
6	発音記号一子音、複母音と声調	22	第四課 単語朗読とピンイン聞き取り
7	発音記号一子音、鼻母音と声調	23	家族の言い方、疑問詞と疑問文の構成
8	発音記号一子音、鼻母音と声調	24	練習
9	発音記号一子音、鼻母音と声調	25	まとめ、自己紹介発表
10	まとめ、小テスト	26	第五課 単語朗読とピンイン聞き取り
11	実践練習一授業用語の朗読練習、第一課	27	数詞と年月日の言い方、練習
12	第一課 単語朗読とピンイン聞き取り	28	第三、四課のまとめ、第六課
13	第一課 「是」述語文の構成説明	29	第六課 単語朗読とピンイン聞き取り
14	第一課 練習	30	時間と時刻、「了」のまとめ
15	第二課 単語朗読とピンイン聞き取り	31	小テスト
16	第二課 形容詞述語文構成説明		

【履修上の注意事項】

中国語に興味や関心を持ち、それを知るために、積極的に取り組む学生の登録を歓迎する。

【評価方法】

習得度測定テスト（1）60%、小テスト、出席などを総合して評価します。

【テキスト】

『老師好！一王先生との出会い』一郁文堂

【参考文献】

中国語辞書を各自に準備してください。

中国語 I

担当教員 島袋 直樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米・産情（月木3）、法律（月木4）

【授業のねらい】

このクラスは、はじめて中国語を学ぶ学生を対象とし、聞いて話せる実用的な中国語の習得を目指す。「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎的な学習を行うが、前期では特に発音と声調（イントネーション）の習得に重点をおく。初学者でも正確な発音ができるように一つずつ積み重ねながら指導していく。簡単な会話ができるように基本語彙と基本文型を習得する。インターネットなどを使って中国文化への関心と理解を深めていくようにする。

【授業の展開計画】

第1週：授業のガイダンス、第1課から第3課（発音「母音」、「声調」）
第2週：第1課から第3課（発音「母音」、「声調」）
第3週：第1課から第3課（発音「母音、子音」、「声調」）
第4週：第1課から第3課（発音「母音、子音」、「声調」）、発音の総復習
第5週：第4課（挨拶、数字など）
第6週：第6課（名前の尋ね方と答え方など）
第7週：第5課（動詞述語文、形容詞述語文、主述述語文など）
第8週：第5課
第9週：第5課
第10週：第7課（動詞「是」、「的」の使い方など）
第11週：第8課（動詞「在」、方位詞など）
第12週：第8課
第13週：第9課（名詞述語文、月日・曜日・時間の言い方など）
第14週：第9課
第15週：復習
第16週：復習、テスト

【履修上の注意事項】

発音や声調のチェック、基本文の暗誦など声を出すことが求められる。遅刻、欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

「習得度測定テスト1」60%、「発音チェック」40%とし、「出席・授業態度（積極的参加、努力）」などを加味して評価する。

【テキスト】

授業において説明する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

中国語 I

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 全学年 全学科（月木5）

【授業のねらい】

中国において共通語と言われる「普通話（pu tong hua）」を習得するクラスです。中国語は声調言語と言われ発音における声調（トーン）が重要です。正確な発音を習得するために、教科書の音読練習を繰り返し行います。基本文型、自己紹介、挨拶はしっかりと流暢に口から出るようになることを目標とします。教科書では中国の生活習慣を紹介しています。しかし、国土も広く、めざましい発展を遂げている中国なので教科書と異なる部分もありますが、その点は授業で適宜紹介します。

【授業の展開計画】

このクラスは週に2回の授業があります。
原則として木曜日のクラスでは、教科書に沿って講義を行います。
月曜日は木曜日に学習した成果を各自発話してもらい評価します。
正しい発音（声調）で基本文型と語彙をスラスラ言えるようになることを目標とします。

週	授 業 の 内 容
1	クラスでの重要事項の確認（目標と目的・評価と課題）。中国について。中国語について
2	ピンインと漢字。発音練習
3	第一課 SVC文と疑問文 発話練習
4	第二課 SVO文 発話練習
5	第三課 SV文 発話練習
6	第四課 助数詞と数詞 発話練習
7	第五課 存在文と所在文 発話練習
8	第六課 経験、確定未来表現 発話練習
9	総復習
10	チャレンジテスト
11	定着度テスト（第一課、第二課、第三課）
12	定着度テスト（第四課、第五課）
13	前置詞、形容詞、動詞、名詞について
14	第七課 時間について
15	総復習
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

他の中国語クラスは指定学科がありますが、このクラスは全学部全学科の学生が登録可能です。年次に関しても指定はありません。

【評価方法】

発音の習得を確認するためにすべての中国語 I クラスで「習得度測定テスト」があります。更に、毎課、口頭の小テストがあり小テストの積み上げが加点され、最終成績になります。

習得度測定テスト 1 60%
クラスでの小テスト 40%

【テキスト】

『簡明 基礎中国語』 著：高山乾忠（白帝社）

【参考文献】

講義の際に適宜紹介します

中国語 I

担当教員 張 維 真

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

中国語の履修者の中には会話力をしっかりと身に付けたいと思っている学生が多くいます。授業では、特に発音や声調の指導に注意をはらいながら、教科書の中の基礎構文を理解し、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかる。

【授業の展開計画】

1. 自己紹介、中国語についての説明
2. 中国語の声調「四声」の練習、発音チェック
3. 子音を加えて四声の練習、単母音の発音、発音チェック
4. 有気音・無気音の区別と練習、発音チェック
5. 有気音・無気音の練習、鼻音nとngの区別と練習、発音チェック
6. 卷舌音の練習、鼻音の発音チェック
7. 卷舌音の練習と発音チェック
8. 複母音の練習と発音チェック
9. 各自の名前の中国語の発音
10. テキストを使って、発音の総合復習
11. 第一課に入る、発音の復習とチェック
12. 第一課の内容説明、発音練習とチェック
13. 第二課の内容説明、発音練習とチェック
14. 第二課の復習、第三課の内容説明、発音練習とチェック
15. 第三課の読み練習、語彙の暗記と発音チェック
16. 第一課～三課の筆記テスト、第四課の内容説明
17. DVDで中国を知る
18. 第四課の読み練習、語彙の暗記と発音チェック会話文の書き練習
19. 第五課の内容説明。第一課～四課の内容を参考し、会話文の書き練習
20. 二人で会話のやりとり練習と発表
21. 中国語の歌を教える。第五課の発音練習とチェック
22. 第六課の内容説明、読み練習と発音チェック
23. 第六課の復習とリスニングチェック、第七課の内容説明
24. 第七課の読み練習と発音チェック、第八課の内容説明
25. 第八課の発音練習とチェック、第九課の内容説明
26. 第九課の読み練習と発音チェック
27. 会話文の作成練習
28. 会話文の暗記と発表
29. 期末テスト前の総合復習
30. 期末テスト前の総合復習
31. 期末テスト

【履修上の注意事項】

出席率を重視します。語学学習は継続的な教師による直接指導が大事です。特に中国語は発音が難しく、さらに四声という声調があります。発音と声調は教師の細かい指導を受けなければマスターできません。簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかるために、教科書の中の単語や重要構文も一部暗記してもらわなければなりません。100%の出席をめざしてください。

【評価方法】

評価の60%は習得度測定テストで、残る40%は毎課の理解度チェックや筆記テスト及び授業態度・出席率を加味して行います。

【テキスト】

たのしくできる We Can! 中国語 初級（全25課）

監修 佐藤晴彦

著者 徐送迎 朝日出版社

【参考文献】

相原茂『中国語学習ハンドブック』大修館書店

中国語Ⅱ

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 全学年 全学科（月木5）

【授業のねらい】

中国語の発音の基礎は既に習得されている学生を対象とします(中国語Ⅰを履修済み、或いはそれと同等以上の習得レベルを有する者)。

中国語は声調言語と言われ発音における声調(トーン)が重要です。。日常での場面を想定した基本会話を習得します。

【授業の展開計画】

後期のクラスは原則として前期からの継続である。ただし、夏休み期間で個々の差がでてくる。

新たな学期を自信を持ってスタートするために先ず、既習事項と定着度の確認をテストする。

学期末には習得度測定試験を行う。その結果と学期初めに行った定着度テストを比べ自分の実力を見極め検定試験等へチャレンジしてもらいたい。

週	授 業 の 内 容
1	クラスでの重要事項の確認(目標と目的・評価と課題)。ピンインと声調の確認
2	定着度テスト 結果と課題提示
3	前期の復讐 筆記問題と口頭練習
4	第七課 復習 発話練習
5	第八課 発話練習
6	第九課 助動詞 連動文 発話練習
7	第十課 助動詞 連動文 発話練習
8	総復習 練習 Web試験と口頭試験
9	第十一課 介詞 発話練習
10	復讐 チャレンジテスト 結果と課題
11	第十二課 発話練習
12	第十二課 発話練習 総合テスト
13	総復習
14	習得度測定試験
15	習得度測定試験
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

クラスでは教科書に設定された場面を演じます。

人前での発表に支障が有る者は相談に来てください。

【評価方法】

毎課の小テストがあります。小テストの積み上げが成績になります。

学期末に『習得度測定試験』を行います。その結果に積み上げてきた小テストの結果を加数します。

【テキスト】

『簡明基礎中国語』 著；高山乾忠 (白帝社)

【参考文献】

自作教材：本学CALL上の問題集、
習得度測定試験。

中国語Ⅱ

担当教員 金田 知子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文(月木3)、人福(月木4)

【授業のねらい】

本授業は中国語Ⅰの引き続きです。発音の練習を繰り返しながら基本的な文法項目を理解し、簡単な会話や自己紹介など短い文章作成ができることを目標とします。また、中国語検定試験4級に合格を目指して模擬問題を取り組んで練習する予定です。

中国語を習得すると共に異文化理解を深めていくことも目標とします。

【授業の展開計画】

*習熟度により多少変更あり。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期の復習	17	応用・小テスト
2	第11課 幾つ・お金の言い方	18	まとめテスト2
3	復習・練習	19	第16課 ～できる・状態補語
4	応用・小テスト	20	復習・練習
5	第12課 経験を言う・回数と期間・助動詞	21	応用・小テスト
6	復習・練習	22	第17課 結果補語・可能補語・方向補語
7	応用・小テスト	23	復習・練習
8	まとめテスト1	24	応用・小テスト
9	第13課 過去形・選択疑問文	25	第18課 動作の進行形・状態の持続表現
10	復習・練習	26	復習・練習
11	応用・小テスト	27	応用・小テスト
12	第14課 前置詞・「是…的」構文・「～吧」	28	まとめテスト3
13	復習・練習	29	総復習1
14	応用・小テスト	30	総復習2
15	第15課 ちょっと～・動詞+二重目的語	31	期末試験
16	復習・練習		

【履修上の注意事項】

- 履修者は中国語Ⅰの単位を取得したものに限る。
- 毎課ごとに小テストがある。
- 遅刻、授業中の携帯電話の使用、私語等が禁じられる。
- 原則として追試験、再試験は実施しない。
- 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

習得度測定テスト(全校統一テスト)	60%
小テスト	30%
出席状況	10%

【テキスト】

『初級中国語 教科書+参考書』 小川郁夫 著 白帝社

【参考文献】

『北京の街角で』(本校CALL教室)

中国語Ⅱ

担当教員 田添 暢彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政（月木3）、地行（月木4）

【授業のねらい】

前期に習得した事項を確認しながら、中国語を読み、書き、話し、聞く能力の向上をはかる。現代中国事情にも可能な限り触れ、最終的に受講者がそれぞれの専攻に関連する事柄を辞書を引きながら独力で調べられるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週2回の授業のうち以下にカギ括弧を付した「基本フレーズ」を中心とした会話練習と文法項目の整理を交互に行う。途中幾度か復習のみの授業をもうけ知識の定着をはかる。

週	授 業 の 内 容
1	前期の復習
2	「北京の冬は東京より寒い」
3	「私たちは先生と一緒に中国に行きたい」
4	動作の回数 動詞「打算」 助動詞「想」 「どこ」を表す表現
5	「私も入って見てみたい」
6	方向補語（1） 「是不是」の疑問文 兼語文に用いられる「請」 など
7	「私は中華料理を作っています」
8	動作の進行の表し方 動詞+給 結果補語など
9	前半のまとめ
10	「このフレーズが翻訳できない」
11	可能を表す助動詞 方向詞 「行不行」「一下」など
12	「宿題を提出してください」
13	「把」文型 方向補語（2）助動詞「要」
14	「左に曲がってまっすぐ行けばつきます」
15	「もうすぐテストです」
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

前期に中国語Ⅰの単位を認定されなかった人は後期の中国語Ⅱを履修できないので注意してください。

【評価方法】

学期末の試験に加え、平生の授業への取り組みを総合的に評価します

【テキスト】

前期のテキストを継続して使用します

【参考文献】

木村英樹（1996）『中国語ははじめの一步』ちくま新書
 相原茂・石田知子・戸沼市子 共著（1996）『Why?にこたえる はじめての 中国語の文法書』 同学社
 白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人』岩波科学ライブラリー 岩波書店

中国語Ⅱ

担当教員 車 莉莉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=企シ（月木3）、2～4年次対象=日文・英米・人福（月木5）

【授業のねらい】

後期は、ピンイン(発音記号)と声調(アクセント)を流暢に読み書き、正確に聞き分ける学習ポイントは前期と変わりません。さらに強化するために、実践の場を設け、覚えた中国語で講師、あるいは中国語話者にインタビューをさせ、標準語発音の確立、リスニングの向上を図る練習も組まれます。初級レベルの表現内容を主体とする短文を正確に読める、理解する、積極的にコミュニケーションをとることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明、第五、六課の復習	17	まとめ、小テスト
2	第七課 所在・所有文、前置詞「从～到」	18	第十一課 持続表す「着」
3	総合練習	19	総合練習
4	総合練習	20	総合練習
5	第八課 経験形「□」、動詞の重ね形	21	第九、十課の復習
6	総合練習	22	第十二課 動作の進行の表し方と結果補語
7	総合練習	23	総合練習
8	まとめ、小テスト	24	総合練習
9	第九課 比較の表現、選択疑問文	25	まとめ、小テスト
10	総合練習	26	発音チェック、朗読練習
11	総合練習	27	第十三課 可能を表す助動詞<
12	第七、八課の復習	28	総合練習
13	発音チェック、朗読練習	29	総合練習
14	第十課 助動詞「想」	30	第十一、十二、十三課の復習
15	総合練習	31	テスト
16	総合練習		

【履修上の注意事項】

中国語Ⅰを履修済み、或いは、習得度測定テスト(1)の結果が60%以上の学生の登録を受け付けします。

【評価方法】

習得度測定テスト(2)60%、小テスト、出席などを総合して評価します。

【テキスト】

『老師好！－王先生との出会い』－郁文堂

【参考文献】

中国語辞書を各自に準備してください。

中国語Ⅱ

担当教員 一兎玉 啓子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1～4年次対象：社文（月木3）

【授業のねらい】

一年間を通して、中国語の基礎力を養います。前期に引き続き、中国語の発音、イントネーション（声調）をマスターし、基礎レベルの構文に習熟することにより、基本的な会話ができるようにします。パソコンでの中国語の漢字やpinyin入力ができるようにし、最終的には中国語検定試験四級～三級レベルに到達できることを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期の授業計画について 前期の復習
2	第9課 第10課
3	小テスト パソコン入力の方法
4	第11課 第12課
5	小テスト パソコン入力
6	総合復習
7	読解（プリント） パソコン
8	読解（プリント）
9	小テスト パソコン
10	読解（プリント）
11	小テスト パソコン
12	読解（プリント）
13	読解 パソコン
14	読解 パソコン
15	読解 パソコン
16	復習 期末テスト

【履修上の注意事項】

中国語Ⅰを履修済みか、あるいはウェブ上の「習得度測定テスト1」の結果が60%以上の学生は登録できます。登録は1年、4年、3年、2年の順になります。

【評価方法】

基本的に、ウェブ上の「習得度測定テスト2」の結果が60%以上の学生が単位認定の対象となります。（評価は可）。習熟度測定テストの構成は主に、1 pinyinの習熟度、2 声調の聞き取り、3 基本語彙、4 基本文型となっています。40%は、授業への積極的な参加、各テストの点数、本文の読み方（声調、発音などが正しく読めているか）、小テストの点数、課題などの点数を総合的に評価します。（良、優）

【テキスト】

簡明 基礎中国語 白帝社

【参考文献】

授業中に、適宜紹介します。

中国語Ⅱ

担当教員 張 維 真

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

中国語の履修者の中には、会話力をしっかりと身に付けたいと思っている学生が多くいます。授業では、特に発音や声調の指導に注意をはらいながら、教科書の中の基礎構文を理解し、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかる。

【授業の展開計画】

1. 発音の復習
2. 発音の復習とチェック、第十課の内容説明
3. 第十課の読み練習と発音チェック
4. 第十一課の内容説明と発音チェック
5. 第十一課の読み練習と会話演習
6. 第十二課の内容説明と発音チェック
7. 第十二課の復習と筆記テスト
8. 第十三課の内容説明と発音チェック
9. 第十三課の復習と暗記チェック
10. DVDで中国を知る
11. 第十四課の内容説明、読み練習と発音チェック
12. 第十四課復習。中国語の歌を紹介し、覚えてもらう
13. 第十五課の内容説明、読み練習と発音チェック
14. 第十六課の内容説明、読み練習と発音チェック
15. チームで中国語の劇を作る
16. 劇の発表と講評
17. 第十七課の内容説明、読み練習と発音チェック
18. 筆記テスト、第十八課に入る
19. 第十八課の復習と発音チェック
20. 筆記テスト、第十九課の読み練習と発音チェック
21. 第二十課の内容説明、読み練習と発音チェック
22. 第二十一課の内容説明、読み練習と発音チェック
23. 第二十二課の内容説明、読み練習と発音チェック
24. 第二十三課の内容説明、読み練習と発音チェック
25. 第二十四課の内容説明、読み練習と発音チェック
26. 第二十五課の内容説明、読み練習と発音チェック
27. 作文練習
28. 会話文の発表
29. 期末テスト前の総合復習
30. 期末テスト前の総合復習
31. 期末テスト

【履修上の注意事項】

中国語Ⅰを履修済み、或いは、習得度測定テスト1の結果が60%以上の学生。

出席率を重視します。語学学習は継続的な教師による直接指導が大事です。中国語Ⅱでも、学生の発音と声調がしっかりとできているのか確認しながら、授業をおこないます。発音や声調をマスターできていない学生に対しては、その矯正を行います。また、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかるために、教科書の中の単語や重要構文も一部暗記してもらわなければなりません。100%の出席をめざしてください。

【評価方法】

評価の60%は習得度測定テスト2で決め、残りの40%は毎課の理解度チェックや筆記テスト及び授業態度・出席率を加味して行います。

【テキスト】

たのしくできる「We Can中国語 初級」

監修 佐藤晴彦

著者 余送迎 朝日出版社

【参考文献】

相原茂『中国語学習ハンドブック』大修館書店

中国語Ⅱ

担当教員 島袋 直樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米・産情（月木3）、法律（月木4）

【授業のねらい】

このクラスは、中国語Ⅰを履修した者あるいは同等以上の能力を有する者を対象に、聞いて話せる実用的な中国語の習得を目指す。正確な発音と声調の定着を目指すとともに、「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎的な学習事項を進めていく。

【授業の展開計画】

- 第1週：授業のガイダンス、前期の復習
- 第2週：前期の復習
- 第3週：第10課（動詞「有」、人やモノの数え方など）
- 第4週：第11課（「100」以上の数字、お金の数え方など）
- 第5週：第12課（動態助詞など）
- 第6週：第13課（動態助詞、選択疑問文など）
- 第7週：第13課
- 第8週：第14課（前置詞など）
- 第9週：第15課（「ちょっと・・・する」の言い方など）
- 第10週：第16課（助動詞、補語など）
- 第11週：第16課
- 第12週：第17課（補語など）
- 第13週：第17課
- 第14週：第18課（「・・・ている」の言い方など）
- 第15週：第18課、復習
- 第16週：復習、テスト

【履修上の注意事項】

中国語Ⅱは中国語Ⅰを履修済み、或いは、習得度測定テスト1の結果が60%以上の学生が登録できる。発音や声調のチェック、基本文の暗誦など声を出すことが求められる。遅刻、欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

「習得度測定テスト2」60%、「発音チェック」40%とし、「出席・授業態度（積極的参加、努力）」などを加味して評価する。

【テキスト】

授業において説明する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

中国語Ⅲ

担当教員 顔 瑾（火2）、兼本 敏（金2）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

本講義は基礎中国語を履修した学生を対象としている。授業では初習段階での復習で発音や聴解力を深める。中国人講師と日本人講師の組み合わせで行う。中国人講師は中国語で授業を行い、日本人講師は主に学生からの疑問や中国語の作文力（口頭、筆記）読解力を支援する。

【授業の展開計画】

本講義は週二回の講義形態で、15週（30回）＋学期末試験（1回）により構成される。下記の文法項目の学習を交えながら講義（文法解説、語彙解説）と中国人講師との会話を行う。

週	授 業 の 内 容
1	自己紹介とオリエンテーション
2	習得度測定テスト 分析と結果
3	疑問詞 動詞構文
4	疑問文 名詞構文
5	疑問文の総復習 形容詞構文
6	数詞・助数詞
7	副詞（場所・時間・方法・様態）
8	副詞（場所・時間・方法・様態）
9	連動文 助動詞
10	完了の“了” と 変化の“了”
11	経験を表す構文
12	強調構文
13	補語（結果・方向・可能）
14	比較の文型
15	総復習
16	試験

【履修上の注意事項】

中国語1・2が履修済みであること。
中国語スピーチコンテストに参加するための訓練を行う。

【評価方法】

主に学期末の期末試験の成績を基準に成績評価を行うが、中国語スピーチコンテストの取り組みや諸課題の提出状況、さらに、出席状況、学習態度なども加味する。

【テキスト】

講義初日に決定する。
候補：「合格る中国語」・「ゼロから学ぶ中国語」・「中国語つぎへの一步」

【参考文献】

辞書、その他、参考書や検定試験問題集

中国語Ⅳ

担当教員 顔 瑾（火2）、兼本 敏（金2）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

本講義は日本人講師と中国人講師によるペアで行う。言語や文化学習を中国人講師と中国語を駆使して中国語会話の応用力をつける。日本人講師は文法解説を主として行い受講生の理解を補佐する。

【授業の展開計画】

本講義は週二回の講義形態で構成される。火曜日は中国人講師と中国語で会話を行い、発話能力と聴解能力を高める。金曜日は日本人講師と文法チェックや会話の疑問点の解説を行う、補助的なクラスとなる。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	中国語スピーチコンテスト指導
3	中国語スピーチコンテスト指導
4	既習事項の総復習
5	会話：自己紹介
6	会話：自己紹介
7	会話：日本の文化を紹介する
8	会話：日本の文化を紹介する
9	会話：日本の文化を紹介する
10	会話（正月について）
11	会話（将来の夢）
12	会話（将来の夢）
13	会話（将来の夢）
14	模擬試験（聴解）
15	模擬試験（長文読解）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

中国語1・2が履修済みであること。
中国語スピーチコンテストに参加する準備を行う。

【評価方法】

主に学期末の期末試験の成績を基準に成績評価を行うが、中国語スピーチコンテストの取り組み状況、さらに、教室内で中国語による会話への参加頻度、出席状況、学習態度なども加味する。

【テキスト】

中国語Ⅲで決定した教科書を継続使用

【参考文献】

辞書
検定問題集など

ドイツ語 I

担当教員 漆谷克秀（月 4）、クラウス・フランケ（木 4）

対象学年 1年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】1年次 法律・地行

【授業のねらい】

この授業は、現代口語ドイツ語をはじめて学習する学生を対象としています。ドイツ語の帰阪構造を理解し、ドイツ語の発音ができるようになることに重点を置きます。口頭による練習が中心になります。間違ってもあたりまえだと思って、声を出してください。また、ドイツ事情、ドイツ文化を知ることも重要です。

【授業の展開計画】

- 1週： 担当者の自己紹介 授業に関するガイダンス、Das Alphabet
- 2週： 発音のポイント、注意すべき母音、注意すべき子音
- 3週： ドイツ語の挨拶、数字（0～20）
- 4週： Lektion 1 人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順（平叙文、疑問文）
- 5週： Lektion 1 疑問詞、sein、否定表現(nicht)、Übungen 1、接続詞①並列、Dialog
- 6週： Lektion 2 名詞の性と格変化(1・4格)、haben、否定表現(kein)、
- 7週： Lektion 2 ja, nein, dochの用法、Übungen 2, Dialog
- 8週： Lektion 3 名詞の複数形、3格と2格、格のまとめ、人称代名詞の3格と2格
- 9週： Lektion 3 3格目的語、4格目的語、語順、Übungen 3, Dialog
- 10週： Lektion 4 不規則変化動詞の現在人称変化、命令形
- 11週： Lektion 4 否定表現(nicht)、Übungen 4, Dialog
- 12週： Lektion 5 冠詞類、不定冠詞類、定冠詞類
- 13週： Lektion 5 否定表現のまとめ、keinかnichtか? Übungen 5, Dialog, 数字②
- 14週： Lektion 6 前置詞の格支配、分離・非分離動詞
- 15週： Lektion 6 分離・非分離動詞、Übungen 6, Dialog
- 16週： 期末試験

【履修上の注意事項】

ドイツ人と日本人のチームで授業をします。指定学科をまもってください。しかし、登録者がアンバランスの場合、クラス間で調整します。テキストと『独和辞典』を持って出席すること。

発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。

また、適時、授業中に小テストをおこなうこともあります。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典： エクセル独和辞典(郁文堂)、アポロン独和辞典(同学社)、アクセス独和辞典(三修社)など。いずれかを用意してください。

ドイツ語 I

担当教員 吉井巧一（月 3）、クラウス・フランケ（木 3）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】 1年次 日文・社文

【授業のねらい】

この授業は、現代口語ドイツ語をはじめて学習する学生を対象としています。ドイツ語の帰阪構造を理解し、ドイツ語の発音ができるようになることに重点を置きます。口頭による練習が中心になります。間違ってもあたりまえだと思って、声を出してください。また、ドイツ事情、ドイツ文化を知ることも重要です。

【授業の展開計画】

- 1週： 担当者の自己紹介 授業に関するガイダンス、Das Alphabet
 2週： 発音のポイント、注意すべき母音、注意すべき子音
 3週： ドイツ語の挨拶、数字（0～20）
 4週： Lektion 1 人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順（平叙文、疑問文）
 5週： Lektion 1 疑問詞、sein、否定表現(nicht)、Übungen 1、接続詞①並列、Dialog
 6週： Lektion 2 名詞の性と格変化(1・4格)、haben、否定表現(kein)、
 7週： Lektion 2 ja, nein, dochの用法、Übungen 2, Dialog
 8週： Lektion 3 名詞の複数形、3格と2格、格のまとめ、人称代名詞の3格と2格
 9週： Lektion 3 3格目的語、4格目的語、語順、Übungen 3, Dialog
 10週： Lektion 4 不規則変化動詞の現在人称変化、命令形
 11週： Lektion 4 否定表現(nicht)、Übungen 4, Dialog
 12週： Lektion 5 冠詞類、不定冠詞類、定冠詞類
 13週： Lektion 5 否定表現のまとめ、keinかnichtか? Übungen 5, Dialog, 数字②
 14週： Lektion 6 前置詞の格支配、分離・非分離動詞
 15週： Lektion 6 分離・非分離動詞、Übungen 6, Dialog
 16週： 期末試験

【履修上の注意事項】

ドイツ人と日本人のチームで授業をします。指定学科をまもってください。しかし、登録者がアンバランスの場合、クラス間で調整します。テキストと『独和辞典』を持って出席すること。発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。また、適時、授業中に小テストをおこなうこともあります。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典： エクセル独和辞典(郁文堂)、アポロン独和辞典(同学社)、アクセス独和辞典(三修社)など。いずれかを用意してください。

ドイツ語 I

担当教員 クラウス・フランケ（月 4）、漆谷克秀（木 4）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】 1年次 人福

【授業のねらい】

この授業は、現代口語ドイツ語をはじめて学習する学生を対象としています。ドイツ語の帰阪構造を理解し、ドイツ語の発音ができるようになることに重点を置きます。口頭による練習が中心になります。間違ってもあたりまえだと思って、声を出してください。また、ドイツ事情、ドイツ文化を知ることも重要です。

【授業の展開計画】

- 1週： 担当者の自己紹介 授業に関するガイダンス、Das Alphabet
 2週： 発音のポイント、注意すべき母音、注意すべき子音
 3週： ドイツ語の挨拶、数字（0～20）
 4週： Lektion 1 人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順（平叙文、疑問文）
 5週： Lektion 1 疑問詞、sein、否定表現(nicht)、Übungen 1、接続詞①並列、Dialog
 6週： Lektion 2 名詞の性と格変化(1・4格)、haben、否定表現(kein)、
 7週： Lektion 2 ja, nein, dochの用法、Übungen 2, Dialog
 8週： Lektion 3 名詞の複数形、3格と2格、格のまとめ、人称代名詞の3格と2格
 9週： Lektion 3 3格目的語、4格目的語、語順、Übungen 3, Dialog
 10週： Lektion 4 不規則変化動詞の現在人称変化、命令形
 11週： Lektion 4 否定表現(nicht)、Übungen 4, Dialog
 12週： Lektion 5 冠詞類、不定冠詞類、定冠詞類
 13週： Lektion 5 否定表現のまとめ、keinかnichtか? Übungen 5, Dialog, 数字②
 14週： Lektion 6 前置詞の格支配、分離・非分離動詞
 15週： Lektion 6 分離・非分離動詞、Übungen 6, Dialog
 16週： 期末試験

【履修上の注意事項】

ドイツ人と日本人のチームで授業をします。指定学科をまもってください。しかし、登録者がアンバランスの場合、クラス間で調整します。テキストと『独和辞典』を持って出席すること。発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。また、適時、授業中に小テストをおこなうこともあります。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典： エクセル独和辞典(郁文堂)、アポロン独和辞典(同学社)、アクセス独和辞典(三修社)など。いずれかを用意してください。

ドイツ語 I

担当教員 クラウス・フランケ（月3）、吉井巧一（木3）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】1年次 経済・環政・企シ・産情・英米

【授業のねらい】

この授業は、現代口語ドイツ語をはじめて学習する学生を対象としています。ドイツ語の帰阪構造を理解し、ドイツ語の発音ができるようになることに重点を置きます。口頭による練習が中心になります。間違ってもあたりまえだと思って、声を出してください。また、ドイツ事情、ドイツ文化を知ることも重要です。

【授業の展開計画】

- 1週： 担当者の自己紹介 授業に関するガイダンス、Das Alphabet
 2週： 発音のポイント、注意すべき母音、注意すべき子音
 3週： ドイツ語の挨拶、数字（0～20）
 4週： Lektion 1 人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順（平叙文、疑問文）
 5週： Lektion 1 疑問詞、sein、否定表現(nicht)、Übungen 1、接続詞①並列、Dialog
 6週： Lektion 2 名詞の性と格変化(1・4格)、haben、否定表現(kein)、
 7週： Lektion 2 ja, nein, dochの用法、Übungen 2, Dialog
 8週： Lektion 3 名詞の複数形、3格と2格、格のまとめ、人称代名詞の3格と2格
 9週： Lektion 3 3格目的語、4格目的語、語順、Übungen 3, Dialog
 10週： Lektion 4 不規則変化動詞の現在人称変化、命令形
 11週： Lektion 4 否定表現(nicht)、Übungen 4, Dialog
 12週： Lektion 5 冠詞類、不定冠詞類、定冠詞類
 13週： Lektion 5 否定表現のまとめ、keinかnichtか? Übungen 5, Dialog, 数字②
 14週： Lektion 6 前置詞の格支配、分離・非分離動詞
 15週： Lektion 6 分離・非分離動詞、Übungen 6, Dialog
 16週： 期末試験

【履修上の注意事項】

ドイツ人と日本人のチームで授業をします。指定学科をまもってください。しかし、登録者がアンバランスの場合、クラス間で調整します。テキストと『独和辞典』を持って出席すること。発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。また、適時、授業中に小テストをおこなうこともあります。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典： エクセル独和辞典(郁文堂)、アポロン独和辞典(同学社)、アクセス独和辞典(三修社)など。いずれかを用意してください。

ドイツ語 I

担当教員 東江 貴子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】 2・3・4年次 全学科

【授業のねらい】

正しく発音が出来ること。人称代名詞を覚え、規則動詞の人称変化が正しくできるようになること。不規則動詞のsein動詞とhaben動詞は正しく覚え、基礎知識をつかむこと。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録ガイダンス、発音、ドイツ語入門、導入、ドイツ語で挨拶
2	人称代名詞と規則動詞
3	規則動詞、接続詞、疑問詞
4	sein動詞、身分・職業・国籍
5	不規則動詞fahren, schlafenなど
6	不規則動詞sprechenなど
7	不規則動詞sehenなど
8	名詞の性・格
9	haben動詞と不定冠詞 1格 4格
10	不規則動詞と不定冠詞
11	不定冠詞類
12	不定冠詞類（所有冠詞）
13	定冠詞類
14	定冠詞類
15	人称代名詞 3格 4格
16	前期期末試験

【履修上の注意事項】

登録期間内にテキストを購入し、可能なら辞書を持参の上、併用してご活用ください。
登録期間は出席して下さい。登録者が多い場合、出席した学生を優先します。

【評価方法】

出席状況、授業内での課題、自主学習課題提出などは重視します。試験の点数は大学の規定に添って成績評価します。

【テキスト】

Schritt fuer Schritt シュリット・フュア・シュリットたくさん練習して学ぶドイツ語（CD付き） 三修社

【参考文献】

ドイツ語Ⅱ

担当教員 クラウス・フランケ（月4）、漆谷克秀（木4）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】1年次 人福

【授業のねらい】

『ドイツ語Ⅰ』で学習した内容をふまえ、さらに、文法事項の習得と、口頭による自己表現の練習をする。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、Lektion7 話法の助動詞、未来形
 2週： Lektion7 複文(従属文)、Übungen8, Dialog
 3週： Lektion8 zu不定詞、再帰代名詞
 4週： Lektion8 再帰動詞、非人称動詞、Übungen8
 5週： Lektion8 Dialog, Lektion9 動詞の三基本形
 6週： Lektion9 過去形、Übungen9, Dialog
 7週： Lektion10 現在完了形
 8週： Lektion10 疑問文、複文の語順、受動態
 9週： Lektion10 Übungen10, Dialog, 状態受動
 10週： Lektion11 形容詞の用法、形容詞の格変化
 11週： Lektion11 形容詞・副詞の比較表現
 12週： Lektion11 Übungen11, Dialog
 13週： Lektion12 関係代名詞、関係副詞
 14週： Lektion12 Übungen12, Dialog, 序数と日付
 15週： 文法補足、まとめ 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

「ドイツ語Ⅱ」も「ドイツ語Ⅰ」と同様のクラス編成で授業をおこないます。

テキスト、『独和辞典』を持って出席すること。

発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。

指定学科と年次を守って下さい。

適時、小テストをおこないます。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典は、「ドイツ語Ⅰ」を参照。

ドイツ語Ⅱ

担当教員 東江 貴子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】 2・3・4年次 全学科

【授業のねらい】

ドイツ語Ⅰの基礎知識を活かして、助動詞や現在完了を使って、日常会話に役立ちそうな文法を習得します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業に関するガイダンス、ドイツ語Ⅰ文法確認・復習
2	前置詞の種類・3・4格支配の前置詞
3	4格支配の前置詞、3格支配の前置詞
4	分離動詞・非分離動詞
5	話法の助動詞
6	話法の助動詞、未来形
7	zu不定詞句
8	再帰代名詞と再帰動詞
9	動詞の三基本形（不定詞・過去基本形・過去分詞）
10	過去基本形
11	現在完了形
12	現在完了形
13	形容詞の格変化（定冠詞類・不定冠詞類）
14	形容詞・副詞の比較表現
15	関係代名詞
16	後期期末試験

【履修上の注意事項】

ドイツ語Ⅰ単位取得者が対象。

後期は登録期間1日目より出席をとり、授業内容を進めていきます。登録期間中に欠席した場合、出席した学生が優先となることがあります。テキスト・辞書持参で授業に臨んで下さい。

【評価方法】

成績は出席数を重視し、課題、中間と期末試験の取り組み方を総合的に評価します。欠席が3分の1以上の場合、不可になりますのでご注意ください。

【テキスト】

三修社「シュリット・フュア・シュリットSchritt fuer Schritt」たくさん練習して学ぶドイツ語CD付き

【参考文献】

ドイツ語Ⅱ

担当教員 吉井巧一（月3）、クラウス・フランケ（木3）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】1年次 日文・社文

【授業のねらい】

『ドイツ語Ⅰ』で学習した内容をふまえ、さらに、文法事項の習得と、口頭による自己表現の練習をする。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、Lektion7 話法の助動詞、未来形
- 2週： Lektion7 複文(従属文)、Übungen8, Dialog
- 3週： Lektion8 zu不定詞、再帰代名詞
- 4週： Lektion8 再帰動詞、非人称動詞、Übungen8
- 5週： Lektion8 Dialog, Lektion9 動詞の三基本形
- 6週： Lektion9 過去形、Übungen9, Dialog
- 7週： Lektion10 現在完了形
- 8週： Lektion10 疑問文、複文の語順、受動態
- 9週： Lektion10 Übungen10, Dialog, 状態受動
- 10週： Lektion11 形容詞の用法、形容詞の格変化
- 11週： Lektion11 形容詞・副詞の比較表現
- 12週： Lektion11 Übungen11, Dialog
- 13週： Lektion12 関係代名詞、関係副詞
- 14週： Lektion12 Übungen12, Dialog, 序数と日付
- 15週： 文法補足、まとめ
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

「ドイツ語Ⅱ」も「ドイツ語Ⅰ」と同様のクラス編成で授業をおこないます。
 テキスト、『独和辞典』を持って出席すること。
 発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。
 指定学科と年次を守って下さい。
 適時、小テストをおこないます。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典は、「ドイツ語Ⅰ」を参照。

ドイツ語Ⅱ

担当教員 漆谷克秀（月4）、クラウス・フランケ（木4）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】1年次 法律・地行

【授業のねらい】

『ドイツ語Ⅰ』で学習した内容をふまえ、さらに、文法事項の習得と、口頭による自己表現の練習をする。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、Lektion7 話法の助動詞、未来形
- 2週： Lektion7 複文(従属文)、Übungen8, Dialog
- 3週： Lektion8 zu不定詞、再帰代名詞
- 4週： Lektion8 再帰動詞、非人称動詞、Übungen8
- 5週： Lektion8 Dialog, Lektion9 動詞の三基本形
- 6週： Lektion9 過去形、Übungen9, Dialog
- 7週： Lektion10 現在完了形
- 8週： Lektion10 疑問文、複文の語順、受動態
- 9週： Lektion10 Übungen10, Dialog, 状態受動
- 10週： Lektion11 形容詞の用法、形容詞の格変化
- 11週： Lektion11 形容詞・副詞の比較表現
- 12週： Lektion11 Übungen11, Dialog
- 13週： Lektion12 関係代名詞、関係副詞
- 14週： Lektion12 Übungen12, Dialog, 序数と日付
- 15週： 文法補足、まとめ
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

「ドイツ語Ⅱ」も「ドイツ語Ⅰ」と同様のクラス編成で授業をおこないます。

テキスト、『独和辞典』を持って出席すること。

発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。

指定学科と年次を守って下さい。

適時、小テストをおこないます。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典は、「ドイツ語Ⅰ」を参照。

ドイツ語Ⅱ

担当教員 クラウス・フランケ（月3）、吉井巧一（木3）

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】1年次 経済・環政・企シ・産情・英米

【授業のねらい】

『ドイツ語Ⅰ』で学習した内容をふまえ、さらに、文法事項の習得と、口頭による自己表現の練習をする。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、Lektion7 話法の助動詞、未来形
- 2週： Lektion7 複文(従属文)、Übungen8, Dialog
- 3週： Lektion8 zu不定詞、再帰代名詞
- 4週： Lektion8 再帰動詞、非人称動詞、Übungen8
- 5週： Lektion8 Dialog, Lektion9 動詞の三基本形
- 6週： Lektion9 過去形、Übungen9, Dialog
- 7週： Lektion10 現在完了形
- 8週： Lektion10 疑問文、複文の語順、受動態
- 9週： Lektion10 Übungen10, Dialog, 状態受動
- 10週： Lektion11 形容詞の用法、形容詞の格変化
- 11週： Lektion11 形容詞・副詞の比較表現
- 12週： Lektion11 Übungen11, Dialog
- 13週： Lektion12 関係代名詞、関係副詞
- 14週： Lektion12 Übungen12, Dialog, 序数と日付
- 15週： 文法補足、まとめ
- 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

「ドイツ語Ⅱ」も「ドイツ語Ⅰ」と同様のクラス編成で授業をおこないます。

テキスト、『独和辞典』を持って出席すること。

発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。

指定学科と年次を守って下さい。

適時、小テストをおこないます。

【評価方法】

出席と課題、小テスト、試験で評価する。

【テキスト】

『シュリット・フュア・シュリット』（三修社）

【参考文献】

独和辞典は、「ドイツ語Ⅰ」を参照。

ドイツ語Ⅲ

担当教員 漆谷 克秀 (火 2・金 2)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】 2・3・4年次 全学科

【授業のねらい】

初級ドイツ語を履修した学生を対象とします。最初にドイツ語Ⅰ・Ⅱで教えられていない文法事項を学習します。そのあと、週二回の校時がありますので、ひとつの校時はドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習もかねて『ようこそファンタジイの世界へ』(Reise nach Fantasia)の講読にあてます。もうひとつの校時は「ヨーロッパ共通参照枠」のA1の教科書を使います。外国人がドイツで生活するための最初の段階のドイツ語を会話練習中心に学びます。ヨーロッパの文化歴史などに関するビデオを鑑賞する機会も持つ予定です。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、 形容詞の格変化
 2週： 人称代名詞、 再帰表現(再帰動詞、再帰代名詞)
 3週： 熟語動詞、ZU不定詞、受動態
 4週： 関係文(関係代名詞、関係副詞)、比較表現
 5週： 接続法(第1式、第2式)
 6週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 1, Was ist Fantasy?、 "studio d A1" Start auf Deutsch
 7週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 1, Was ist Fantasy?、 "studio d A1" Start auf Deutsch
 8週： "Reise nach Fantasia"Kapital 1, Was ist Fantasy?、 "studio d A1" Start auf Deutsch
 9週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 1, Was ist fantasy?、 "studio d A1" Einheit 1 Cafe d
 10週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 2, Wo ist Fantasy? "studio d A1" Einheit 1
 11週： "Reise nach Fantasia"kapitel 2, Wo ist Fantasy?、 "studio d A1" Einheit 1
 12週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 2, Wo ist Fantasy?、 "studio d A1" Einheit 1
 13週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 3, Fantasy-Charaktere、 "studio d A1" Einheit 2 Im Sprachkurs
 14週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 3, Fantasy-Charaktere、 "studio d A1" Einheit 2
 15週： "Reise nach Fantasia"Kapitel 3, Fantasy-Charaktere、 "studio d A1" Einheit 2
 16週： 期末テスト

【履修上の注意事項】

辞書を持ってくること。ドイツに限らず、ヨーロッパの事柄に関心を持つようにしてください。

【評価方法】

出席と仕事の量で評価します。出席することはそれだけ仕事をするようになります。また、復習したことを確認する程度のテストをします。

【テキスト】

「ようこそファンタジイの世界へ」 (Reise nach Fantasia) , 同学社。
 "studio d A1" (プリントを配布します)

【参考文献】

ドイツ語Ⅳ

担当教員 漆谷 克秀（火 2・金 2）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 【年次・学科指定】 2・3・4年次 全学科

【授業のねらい】

ドイツ語Ⅲを受けて授業を行います。講読ではドイツ語をただ訳すというだけではなく、原文の日本語がどのようなものか考えながら訳すようにします。発音にあたっては、感情が表現できるように努力していきます。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、
 2週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 4, Fantasy-Wesen, "studio d A1" Einheit 3 Städte-Länder-Sprachen
 3週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 4, Fantasy-Wesen, "studio d A1" " Einheit 3
 4週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 4, Fantasy-Wesen, "studio d A1" " Einheit 3
 5週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 5, Fantasy-Handlungen, "studio d A1" " Einheit 3
 6週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 5, Fantasy-Handlungen, "studio d A1" " Einheit 4 Menschen und Häuser
 7週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 5, Fantasy-Handlungen, "studio d A1" " Einheit 4
 8週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 6, Michael Ende, "studio d A1" " Einheit 4
 9週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 6, Michael Ende, "Studio d A1" " Einheit 4
 10週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 6, Michael Ende, "studio d A1" " Station 1 Berufsbilder
 11週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 7, Michael Ende: Die unendliche Geschichte, "studio d A1" " Station 1
 12週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 7, Michael Ende: Die unendliche Geschichte, "studio d A1" " Einheit 5 Termine
 13週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 7, Michael Ende: Die unendliche Geschichte, "studio d A1" " Einheit 5
 14週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 8, Cornelia Funke: Die Tintenwelt, "studio d A1" " Einheit 5
 15週： "Reise nach Fantasia" Kapitel 8, Cornelia Funke: Die Tintenwelt, "studio d A1" " Einheit 5
 16週： 期末テスト

【履修上の注意事項】

辞書を持ってくること。ドイツに限らず、ヨーロッパの事柄に関心を持つようにしてください。

【評価方法】

出席と仕事の量で評価します。出席することはそれだけ仕事をするようになります。また、復習したことを確認する程度のテストをします。

【テキスト】

"Reise nach Fantasia" (ようこそファンタジイの世界) (同学社)
 "studio d A1" (プリントを配布します)

【参考文献】

フランス語 I

担当教員 上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：英米・社文(月木3)

【授業のねらい】

初めて学ぶ「言語」として、「abcの歌」を歌うなど、その音に慣れることから始めます。そして、挨拶などの基本的な日常会話を通して、文の仕組みと発音を学びながら、「読む」「聞く」「書く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とします。そのため、授業では、プリント問題やCALL教室のe-learning問題で文法練習を行うと同時に、CDやDVD教材を使って聞き取りの練習や暗唱にも取り組みます。また、文化の紹介として、生活習慣や行事のほか、音楽や映画、文学などに触れつつ、最終的に、「フランス」的な「もの」や「こと」、「ひと」に対して親しみ、興味を広げていくことを目指します。

【授業の展開計画】

教科書にそって進めていきます。

01～02週目(01～04回目)：ガイダンスと第0課「あいさつをする」

03～06週目(05～12回目)：第1課「自分を紹介する」

07～10週目(13～20回目)：第2課「情報を得る」

11～14週目(21～28回目)：第3課「持ち物をいう」

15～16週目(29～31回目)：まとめと試験

※ただし、授業の進捗状況(学生の方々の習得状況)に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

言葉は繰り返し練習することでしか習得できないものです。例えば、スポーツで、トレーニングによって筋力を高めながら技術を磨くように、フランス語でも、実力を培うために反復練習を行う必要があります。そこで、授業では、練習への積極的な取り組みを要望しますが、学生の方々は、授業外でも自主練習を積み重ねる心構えで臨んで下さい。また、声の大きさは、語学力において思いのほか大きな割合を占めています。できるだけ大きな声を出せるように、意識して練習をして下さい。また、指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業目標の達成度を確認するために、筆記形式による試験(「読む・書く」力の確認)と暗唱形式による発音の試験(「聞く・話す」力の確認)を実施します。また、出席状況と課題の提出状況を得点化し、前述の2つの試験の結果に加えて、総合的に評価します。

●計算式＝筆記試験の得点(35%)＋発音試験の平均得点(35%)＋出席得点(20%)＋課題得点(10%)

【テキスト】

●藤本武司・藤田義孝・井上直子・柏木加代子・柏木隆雄・上江洲律子著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！一』、駿河台出版社(改訂版・CD付)

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社(①入門②初級③文法、各CD付)

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール—フランス文法参考書—』、駿河台出版社(別売りCD有)

フランス語 I

担当教員 -ムートン ジスラン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：法律・人福（月木4） ， 2年次以上：全学科（月木5）

【授業のねらい】

アルファベットの音に慣れることから始め、基本的な日常会話場面を通して文の仕組みを学びながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に身につけます。フランス語の運用力をヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）ゼロからA1レベルまで伸ばすこと、具体的にはフランス語で「挨拶が出来る」、「お礼が言える」、「自己紹介が出来る」、「アルファベットでつづりが言える」、「身の回りのことについて表現できる」ようになることを到達目標とします。また、フランス語はもちろん、フランス文化と異文化コミュニケーションにも興味の幅を広げていくことを目指します。

【授業の展開計画】

CEFRの基準を参照しながら、教科書の内容を使って進めていきます。

01～02週目（01～04回目）：オリエンテーションと第0課「あいさつをする」

03～06週目（05～12回目）：第1課「自分を紹介する」

07～10週目（13～20回目）：第2課「情報を得る」

11～14週目（21～28回目）：第3課「持ち物をいう」

15～16週目（29～31回目）：まとめと試験

※ただし、授業の進捗状況（学生の習得状況）に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

外国語の勉強にもっとも大事なのがモチベーションです。やる気があれば、フランス語もマスターできます。やる気を持続させるのは自律学習能力です。このクラスではフランス語を、何のために、どこで使うのかについてよく考え、到達可能な目標を設定、学習記録を使うことで自律学習を支援します。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業目標の達成度を確認するために、筆記形式による試験（「読む・書く」能力を測る期末試験）と発音のテスト（「聞く・話す」能力の確認が出来る活動）も実施します。また、出席状況を得点化し、前述の二つの試験の結果に加えて、総合的に評価します。

●計算式＝筆記試験の得点（40％）＋発音試験の平均得点（35％）＋出席得点（25％）

【テキスト】

藤本武司・藤田義孝・井上直子・柏木加代子・柏木隆雄・上江洲律子著
『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語Ⅰ』駿河台出版社（改訂版・CD付）
※昨年使用していた教科書に似ているが、2013年からは改訂版なので、ご注意ください

【参考文献】

フランス情報：<http://hitsujiji.ti-da.net/>

フランス文化紹介：<http://www.frenchbloom.net/>

フランス語 I

担当教員 金城 豪

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：経済・環政・企シ・産情・日文（月木3）

【授業のねらい】

フランス語の初心者を対象とします。アルファベットと発音の基礎から始め、当言語を理解するために必要な文法事項を解説していくと共に、反復練習を行います。「読む」「書く」「聞く」「話す」という4つの力を総合的に養成することを目標とします。フランスへのより深い理解と、興味を高めるために、フランスやフランス語圏の文化・芸術・音楽の紹介、映画鑑賞等を予定しています。

【授業の展開計画】

テキストの第0課～第3課に対応

- 第1週 フランスとフランス語に親しむ
- 第2週 文字と発音
- 第3週 文字と発音
- 第4週 挨拶
- 第5週 自己紹介
- 第6週 主語人称代名詞
- 第7週 名詞の性と数・不定冠詞
- 第8週 動詞の活用I(etre)
- 第9週 数字
- 第10週 動詞の活用II (avoir)
- 第11週 形容詞の女性形と複数形・定冠詞
- 第12週 人称代名詞の強勢形・否定文
- 第13週 動詞の活用III (-er動詞)
- 第14週 指示形容詞・所有形容詞
- 第15週 前期の復習とまとめ
- 第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

仏和辞典を持参すること。電子辞書可。

語学は繰り返し根気強く学習することが必要です。毎回積極的に授業に参加すること。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験を総合的に評価します。

【テキスト】

藤本武司他著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

【参考文献】

辞典：多田道太郎編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語 I

担当教員 西森 和広

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

フランス語に初めて接する学生を対象にしたフランス語の初級クラスである。アルファベットと発音の規則の練習から始めて、基礎的な日常会話表現や文法事項の修得を目指す。特に、最初はフランス語修得の壁になりがちな独特な発音の修得に重点を置いて、繰り返し練習を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションとABC	17	人を紹介する表現の語彙と構文
2	0 課：あいさつ表現	18	人を紹介する表現の練習
3	あいさつ表現（2）	19	動詞「持つ」と第一群規則動詞の活用
4	アルファベ、フランス語の音素（母音）	20	疑問文の形
5	フランスについて	21	小テスト；練習問題
6	発音と綴り字	22	練習問題の続き；2課のまとめ
7	発音と綴り字（2）	23	3課：持ち物・所有関係を言う表現
8	小テスト；1課：自己紹介表現	24	持ち物・所有関係表現の語彙と構文
9	自己紹介表現の語彙と構文	25	数字（3）；持ち物・所有関係表現の練習
10	自己紹介表現の練習；数字	26	持ち物・所有関係表現の練習（2）
11	主語人称代名詞と動詞「ある」の活用	27	名詞の性と数；不定冠詞と定冠詞
12	否定文；主語と補語の性数一致	28	否定の冠詞；指示形容詞；人称代名詞強勢形
13	小テスト；練習問題	29	小テスト；練習問題
14	練習問題の続き；1課のまとめ	30	練習問題の続き；3課のまとめ
15	2課：「話す」；「住む」；「年齢」の表現	31	期末テスト
16	動詞「持つ」の表現；数字（2）		

【履修上の注意事項】

根気よく続けることが望まれる。

【評価方法】

以下の三点を三分の二ずつ配点し、その総計により、原則、相対評価する。概ね上位3～4割を優、次の3～4割を良、残りを可もしくは不可とする。ただし受講生が少ない場合（十数名程度）や、著しく優秀または劣等と判断される受講生の多寡により、多少のばらつきが生じる可能性もある。①授業参加の積極性（出席状況、課題・宿題への取り組みなど）②各課ごとの小テスト（口頭・筆記）の計③期末文法テスト

【テキスト】

『オ・パ・カマラッド一足並みそろえて、フランス語！』（新版）藤本武司ほか著（駿河台出版社）

【参考文献】

出版社等の指定は特にしないが、仏和辞典は冊子体であれ、電子メディアによるものであれ、所持されたい。学期初めには学内書店に推薦辞書が置かれる。

フランス語 I

担当教員 宮里 厚子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2年～4年次次対象：法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

フランス語に慣れ親しみ、あいさつや自己紹介など基本的な会話表現の習得を目指します。そのために、授業ではまず発音のルールを学んだあと、教科書に沿って会話の反復練習や文法理解のための練習問題に取り組んでいきます。また授業では、フランスの伝統・習慣・現代事情などの紹介を通して、フランスやフランス語圏の文化やフランス人の考え方等に対する理解を深めることもねらいとします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第 1 週 オリエンテーション / 0 課 あいさつと発音のルール
2	第 2 週 0 課 あいさつと発音のルール・フランスの基礎知識
3	第 3 週 1 課 自己紹介をする：出身・国籍をいう
4	第 4 週 1 課 自己紹介をする：専攻をいう・否定文の作り方
5	第 5 週 1 課 自己紹介をする：職業をいう・人を紹介する
6	第 6 週 1 課 まとめと練習問題
7	第 7 週 2 課 情報を得る：話せる言葉・話せない言葉をいう
8	第 8 週 2 課 情報を得る：住んでいるところ・疑問文の作り方
9	第 9 週 2 課 情報を得る：年齢をいう
10	第10週 2 課 まとめと練習問題
11	第11週 3 課 持ち物をいう：持っている物・持っていない物をいう
12	第12週 3 課 持ち物をいう：物の名前をいう
13	第13週 3 課 持ち物をいう：誰の物かをいう
14	第14週 3 課 まとめと練習問題
15	第15週 前期のまとめ
16	第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

教科書にはCDが付いていますので、授業以外でも自分でCDを聴きフランス語の音に慣れるようにしてください。

【評価方法】

試験、課題、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

『Au pas, camarade! (足並みそろえて, フランス語!)』(改訂版) 藤木武司, 藤田義孝, 井上直子, 柏木加代子, 柏木隆雄・上江洲律子 著 (駿河台出版社)

【参考文献】

各種辞書

フランス語Ⅱ

担当教員 上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：英米・社文(月木3)

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語を「読む」「聞く」「書く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とします。そこで、授業では、日常生活に見られる様々な表現を通して、文の仕組みの把握や、フランス語らしい発音の習得に取り組みます。また、抜粋されたフランス語の文章の読み取りや、作文、映画や音楽を使った書き取りの練習などを行い、フランス文化に触れながら、フランス語の実践力を高めていきます。そして、フランス語の検定試験の受験や、フランス語の中級クラス(フランス語Ⅲ・Ⅳ)への進級、さらには、レンヌ第二大学への交換留学への橋渡しとなる授業を目指します。

【授業の展開計画】

教科書にそって進めていきます。

01週目 (01～02回目) : ガイダンスと復習(1) 第0課「あいさつをする」

02週目 (03～04回目) : 復習(2) 第1課「自分を紹介する」

03週目 (05～06回目) : 復習(3) 第2課「情報を得る」

04週目 (07～08回目) : 復習(4) 第3課「持ち物をいう」

05～07週目 (09～14回目) : 第4課「家族を紹介する」

08～10週目 (15～20回目) : 第5課「予定をいう」

11～14週目 (21～28回目) : 第6課「食事をする」

15～16週目 (29～31回目) : まとめと試験

※ただし、授業の進捗状況(学生の方々の習得状況)に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること、または、その実力を有することが履修の必要条件となります。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

前期と同様、筆記形式による試験(「読む・書く」力の確認)と、暗唱形式による発音の試験(「聞く・話す」力の確認)を実施します。そして、出席状況と課題の提出状況を得点化し、前述の2つの試験の結果に加えて、総合的に評価します。

●計算式＝筆記試験の得点(35%)＋発音試験の平均得点(35%)＋出席得点(20%)＋課題得点(10%)

【テキスト】

●藤本武司・藤田義孝・井上直子・柏木加代子・柏木隆雄・上江洲律子著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！一』、駿河台出版社(改訂版・CD付)

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社(①入門②初級③文法、各CD付)

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール—フランス文法参考書—』、駿河台出版社(別売りCD有)

フランス語Ⅱ

担当教員 -ムートン ジスラン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：法律・人福（月木4） ， 2年次以上：全学科（月木5）

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語を「読む」「聞く」「書く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とします。そこで、授業では、日常生活に見られる様々な表現を通して、文の仕組みの把握や、フランス語らしい発音の習得に取り組みます。また、抜粋されたフランス語の文章の読み取りや作文、映画や音楽を使った書き取りの練習などを行い、フランス文化に触れながら、フランス語の実践力を高めていきます。そして、フランス語の検定試験の受験や、フランス語の中級クラス(フランス語Ⅲ・Ⅳ)への進級、さらにはレンヌ第二大学への交換留学への橋渡しとなる授業を目指します。

【授業の展開計画】

教科書にそって進めていきます。

01週目 (01～02回目) : ガイダンスと復習(1) 第0課「あいさつをする」

02週目 (03～04回目) : 復習(2) 第1課「自分を紹介する」

03週目 (05～06回目) : 復習(3) 第2課「情報を得る」

04週目 (07～08回目) : 復習(4) 第3課「持ち物をいう」

05～07週目 (09～14回目) : 第4課「家族を紹介する」

08～10週目 (15～20回目) : 第5課「予定をいう」

11～14週目 (21～28回目) : 第6課「食事をする」

15～16週目 (29～31回目) : まとめと試験

※ただし、授業の進捗状況(学生の方々の習得状況)に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること、または、その実力を有することが履修の必要条件となります。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

前期と同様、筆記形式による試験(「読む・書く」力の確認)と、暗唱形式による発音の試験(「聞く・話す」力の確認)の結果に、出席得点を加味し、総合的に評価します。

●計算式＝筆記試験の得点(35%)＋発音試験の平均得点(35%)＋出席得点(30%)

【テキスト】

●藤本武司・藤田義孝・井上直子・柏木加代子・柏木隆雄・上江洲律子著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！一』、駿河台出版社(CD付)

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社(①入門②初級③文法、各CD付)

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール—フランス文法参考書—』、駿河台出版社(別売りCD有)

フランス語Ⅱ

担当教員 一金城 豪

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象：経済・環政・企シ・産情・日文（月木3）

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語の基礎を学んでいきます。フランス語Ⅰと同じテキストを使用します。ビデオやCDなどの視聴覚教材を用いながら、日常会話やよく使われる表現を繰り返し練習します。フランス語Ⅲ、Ⅳに進むための確実な文法力を身につけることを目標とします。また文部科学省認定実用フランス語検定試験4～5級取得を目指します。

【授業の展開計画】

テキストの第4課～第6課に対応

- 第1週 前期の復習
- 第2週 部分冠詞・疑問文の作り方
- 第3週 天候・季節の表現（非人称構文）
- 第4週 動詞の活用（-ir動詞）
- 第5週 動詞aller と venir の用法
- 第6週 前置詞deとa の用法
- 第7週 比較の表現
- 第8週 補語人称代名詞
- 第9週 可能・欲求・義務の表現
- 第10週 疑問形容詞
- 第11週 依頼・命令の表現
- 第12週 代名動詞の用法
- 第13週 空間の表現（前置詞）
- 第14週 食事の表現（語彙・文化紹介）
- 第15週 後期の復習とまとめ
- 第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること。または同等の力を有していること。

仏和辞典を毎回持参すること。電子辞書可。

語学は繰り返し根気強く学習することが必要です。毎回積極的に授業に参加すること。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験を総合的に評価します。

【テキスト】

藤本武司他著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

【参考文献】

辞典：多田道太郎編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語Ⅱ

担当教員 宮里 厚子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

「フランス語Ⅰ」ではあいさつや自己紹介・家族の紹介・人物描写などをおもに勉強しましたが、「フランス語Ⅱ」ではより多くの動詞や疑問文の形を学習することにより、さまざまな状況に対応する会話を身につけることを目的とします。日常生活だけでなく、旅行にも使えるような表現等も学習します。また前期に引き続き、フランスやフランス語圏の文化に対する理解を深めることも目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと前期の復習
2	前期の復習（続き）
3	4課：家族を紹介する・職業をいう
4	4課：家族を紹介する・性格や特徴をいう
5	4課：相手についてたずねる
6	4課：友達がどんな人かたずねる
7	5課：相手がどこへ行くのかをたずねる
8	5課：いつ行くつもりかをたずねる
9	5課：相手を誘う・予定を提案する
10	5課：来た場所・行く先をいう
11	6課：食べたい物・飲みたい物をいう
12	6課：好きな物・嫌いな物をいう
13	6課：買い物をする
14	6課：友達の好きな物を確認する
15	まとめと練習問題
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

「フランス語Ⅰ」を履修していること。

【評価方法】

試験、課題、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

『Au pas, camarade! (足並みそろえて, フランス語!)』(改訂版) 藤木武司, 藤田義孝, 井上直子, 柏木加代子, 柏木隆雄・上江洲律子 著 (駿河台出版社)

【参考文献】

講義時に適宜指示する。

フランス語Ⅱ

担当教員 西森 和広

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

「フランス語Ⅰ」の後継科目で、引き続き初級フランス語の修得を目指す。授業の方法、進め方も基本的に同じであるが、前期Ⅰよりも、修得する表現は多様になり、語彙も増え、また文法事項の説明も多岐にわたるようになる。長期休暇後の再開学習になるので、当初は前期の復習等も随時行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	フランス語Ⅰの回顧・復習・発音の整理と練習
2	4課：家族を紹介する表現・語彙
3	家族を紹介する表現の練習
4	文法説明：形容詞・所有形容詞
5	小テスト・練習問題
6	5課：予定を言う表現・語彙
7	予定を言う表現の練習
8	文法説明：動詞 allerとvenir；前置詞と定冠詞の縮約形；命令法；所有代名詞
9	小テスト・練習問題
10	課外：各種の動詞の活用；各種の日常表現
11	6課：食事に関する表現・語彙
12	食事に関する表現の練習
13	文法説明：部分冠詞；疑問代名詞；中性代名詞
14	小テスト・練習問題
15	後期のまとめと復習
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

後期は学生生活に慣れて、欠席が増える傾向があります。注意してください。

【評価方法】

前期フランス語Ⅰと同様に、①授業参加の積極性（出席状況、課題・宿題への取組等）、②小テストの総計、③期末文法テストの三点を三分の一ずつに配点した総計による。また前期と同様、原則として相対評価による（上位3～4割を優、次位3～4割を良、残りを可または不可）。

【テキスト】

『オ・パ・カマラッド！（足並みそろえて、フランス語！）』（新版） 藤木武司ほか著（駿河台出版社）

【参考文献】

各種辞書

フランス語Ⅲ

担当教員 上江洲 律子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

フランス語Ⅰ・Ⅱに引き続き、日常的な会話を通して基本的な表現や文法を学びながらも、「フランス語に親しみ、フランスに関心を持つ」という、フランス語Ⅰ・Ⅱで掲げた目標に留まらず、フランス語を実践的な場で活用できるような力を習得することを目指します。そのため、雑誌や新聞などの読解や、日記や手紙（メール）などの作文、CDやDVDなどの教材を用いた聞き取りや書き取りの練習にも取り組みます。また、旅行や留学などといった、フランス文化圏で過ごすことを念頭に、フランスの生活習慣や年中行事のほか、音楽や映画、文学や芸術などの文化についての紹介も行います。

【授業の展開計画】

教科書にそって進めていきます。

01～02週目（01～04回目）：ガイダンスとフランス語Ⅰ・Ⅱの復習

03～05週目（05～10回目）：第7課日課をいう

06～08週目（11～16回目）：第8課人や物をいいかえる

09～11週目（17～22回目）：第9課過去を語る

12～14週目（23～28回目）：第10課人・ものについてくんだり説明したりする

15～16週目（29～31回目）：まとめと試験

※ただし、授業の進捗状況（学生の方々の習得状況）に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰ・Ⅱを履修済みであること、または、その実力を有することが、履修に必要な条件となります。また、語学において、実践的な力をつけるためには、自主学習が不可欠です。そこで、フランス語Ⅲでは、復習としての課題の提出や、予習としての単語調べなどを義務付けますので、自主学習が必須の授業であることを念頭に履修して下さい。

【評価方法】

授業の達成度を確認するために、筆記形式による試験（「読む」「書く」力の確認）と、暗唱形式による発音の試験（「聞く」「話す」力の確認）を実施します。また、自主学習を推進し、その努力を評価するために、課題の提出状況を得点化し、前述の2つの試験の結果に加えて、総合的に評価します。

○計算式：筆記試験の得点（35%）＋発音試験の平均得点（35%）＋課題得点（30%）

※単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

・藤本武司・藤田義孝・井上直子・柏木加代子・柏木隆雄・上江洲律子著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！一』、駿河台出版社（CD付）

【参考文献】

・田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社（①入門②初級③文法）
・森本英夫・三野博司著『新・リュミエール—フランス文法参考書一』、駿河台出版社

フランス語Ⅳ

担当教員 上江洲 律子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

フランス語Ⅲにひき続き、フランス語の実践的な能力を高めることを目標とします。その実現のために、フランス語の検定試験の受験や、フランス・レンヌ第2大学との交換留学を具体的な目標とし、授業を通して、その目標を達成できる力を培います。

【授業の展開計画】

教科書にそって進めていきます。

01～02週目（01～04回目）：ガイダンスとフランス語Ⅲの復習

03～05週目（05～10回目）：第11課将来、未来を語る

06～08週目（11～16回目）：第12課思いでを語る

09～11週目（17～22回目）：第13課仮定、願望を語る

12～14週目（23～28回目）：第14課感情や希望を表現する

15～16週目（29～31回目）：まとめと試験

※ただし、授業の進捗状況（学生の方々の習得状況）に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅲを履修済みであること、または、その実力を有することが履修の必要条件となります。また、語学において、実践的な力をつけるためには、自主学習が不可欠です。そこで、フランス語Ⅳでは、フランス語Ⅲにひき続き、復習としての課題の提出や、予習としての単語調べなどを義務付けますので、自主学習が必須の授業であることを念頭に履修して下さい。

【評価方法】

授業の達成度を確認するために、筆記形式による試験（「読む」「書く」力の確認）と、暗唱形式による発音の試験（「聞く」「話す」力の確認）を実施します。また、自主学習を推進し、その努力を評価するために、課題の提出状況を得点化し、前述の2つの試験の結果に加えて、総合的に評価します。

○計算式：筆記試験の得点（35%）＋発音試験の平均得点（35%）＋課題得点（30%）

※単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

・藤本武司・藤田義孝・井上直子・柏木加代子・柏木隆雄・上江洲律子著『オ・パ・カマラッド！一足並みそろえて、フランス語！一』、駿河台出版社（CD付）

【参考文献】

・田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社（①入門②初級③文法）
・森本英夫・三野博司著『新・リュミエール—フランス文法参考書一』、駿河台出版社